

平成25年度

保健活動のまとめ

大口町保健センター

大口町健康の町宣言

健康は、まちの財産であり、しあわせの源であります。

心身ともに健康であることは、町民すべての願いであり、活力あるまちづくりのうえで、最も大切なことでもあります。

私たち大口町民は、一人ひとりが健康でしあわせな、明るい活力ある大口町を築くため、ここに「健康の町」を宣言します。

- 1 スポーツやレクリエーションをとおして、健康なところとからだをつくります。
- 2 町民一人ひとりが調和のある、健康で豊かな家庭をつくります。
- 3 健康づくりを地域にひろめ、健康で豊かなまちをつくります。

目 次

1 大口町の概要

1	町の位置及び紹介	1
2	大口町医療機関等分布図	2
3	人口	2
4	人口動態統計年次推移	5
5	選択死因別死亡数・(人口10万対)年次推移	5
6	大口町組織図	8
7	保健センターの概要	9
8	保健活動の変遷	11

2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み	15
2	一般不妊治療費助成事業	16
3	母子健康手帳の交付	16
4	子育て相談室	17
5	フレッシュママの会	17
6	離乳食教室	18
7	たんぽぽ教室	19
8	家庭訪問	20
9	妊婦乳児健康診査	20
10	乳幼児健康診査	21
11	子育て支援・他機関との連携	23

3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み	27
2	健康手帳の交付	27
3	特定健診・特定保健指導	28
4	各種がん検診	32
5	結核検診	37
6	わかば健康診査	38
7	肝炎ウイルス検診	39
8	骨密度測定	40
9	健康教育	41
10	健康相談	45
11	介護予防事業	46

4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み	47
2	幼児期歯科健康診査	48
3	フッ化物洗口説明会	49
4	歯の健康センター	49
5	妊婦歯科健康診査	50
6	歯周病予防健診	51
7	8020・9018運動 歯の健康コンクール	52
8	口腔機能向上事業	53

5 健康推進事業

1	健康推進員活動	54
2	健康おおぐち21計画推進	60
3	国保・介護・健康・福祉の連携取組状況	64

6 感染症予防事業

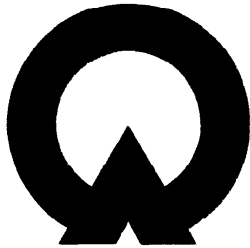
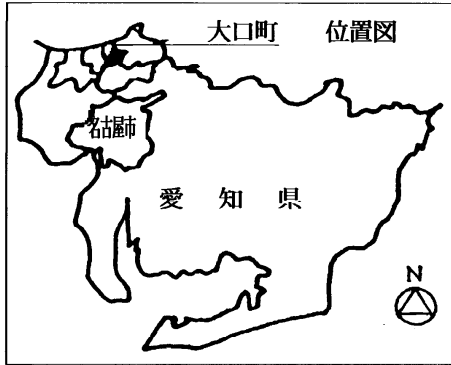
1	予防接種	68
---	------	----

7 その他

1	学生実習指導	72
2	調査・研究	73

1 大口町の概要

1 町の位置及び紹介



大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積13.58平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか18キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道41号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。

2 大口町医療機関等分布図



3 人口

(1) 地区別世帯数 (単位: 世帯)

地区	区分	世帯
秋田		787
豊田		646
大屋敷		553
外坪		267
河北		544
余野		1,904
上小口		624
中小口		773
下小口		1,589
垣田		388
さつきヶ丘		320
合計		8,395

(2) 地区別人口 (単位: 人)

地区	区分	人口		
		男	女	総数
秋田		1,145	1,116	2,261
豊田		972	949	1,921
大屋敷		762	758	1,520
外坪		410	394	804
河北		823	849	1,672
余野		2,659	2,573	5,232
上小口		848	746	1,594
中小口		1,104	1,105	2,209
下小口		2,064	1,862	3,926
垣田		384	514	898
さつきヶ丘		409	413	822
合計		11,580	11,279	22,859

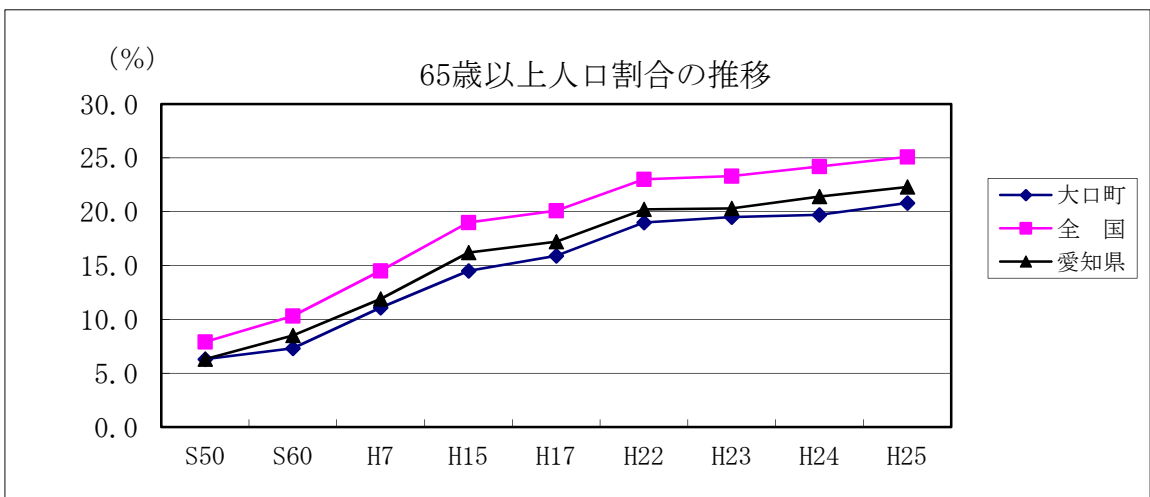
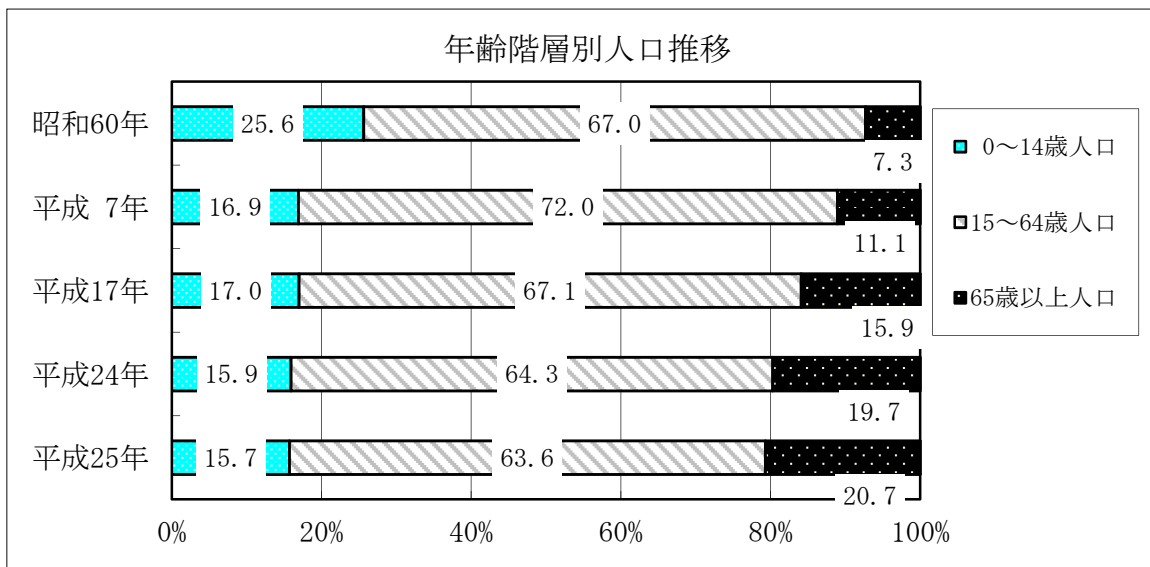
(平成25年10月1日現在 住民基本台帳による)

(3) 年齢階層別人口の推移

(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成24年	平成25年
総人口		15,894	16,195	19,031	21,261	22,817	22,859
年齢階層区分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,616	3,622	3,580
	比率	25.5	25.6	16.9	17.0	15.9	15.7
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,257	14,689	14,537
	比率	68.2	67.0	72.0	67.1	64.3	63.6
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	3,388	4,506	4,742
	比率	6.3	7.3	11.1	15.9	19.7	20.7
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	10,189	11,848	12,062
	比率	28.1	32.2	45.4	47.9	51.8	52.8
75歳以上	308	421	873	1,364	1,862	1,959	
比率	1.9	2.6	4.6	6.4	8.1	8.6	
全国	65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	20.1	24.1	25.1
愛知県	65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	17.2	21.4	22.3

資料：全国・愛知県は、総務省統計局発表のもの。各年、10月1日の人口に基づく。



(4) 地区別高齢化率

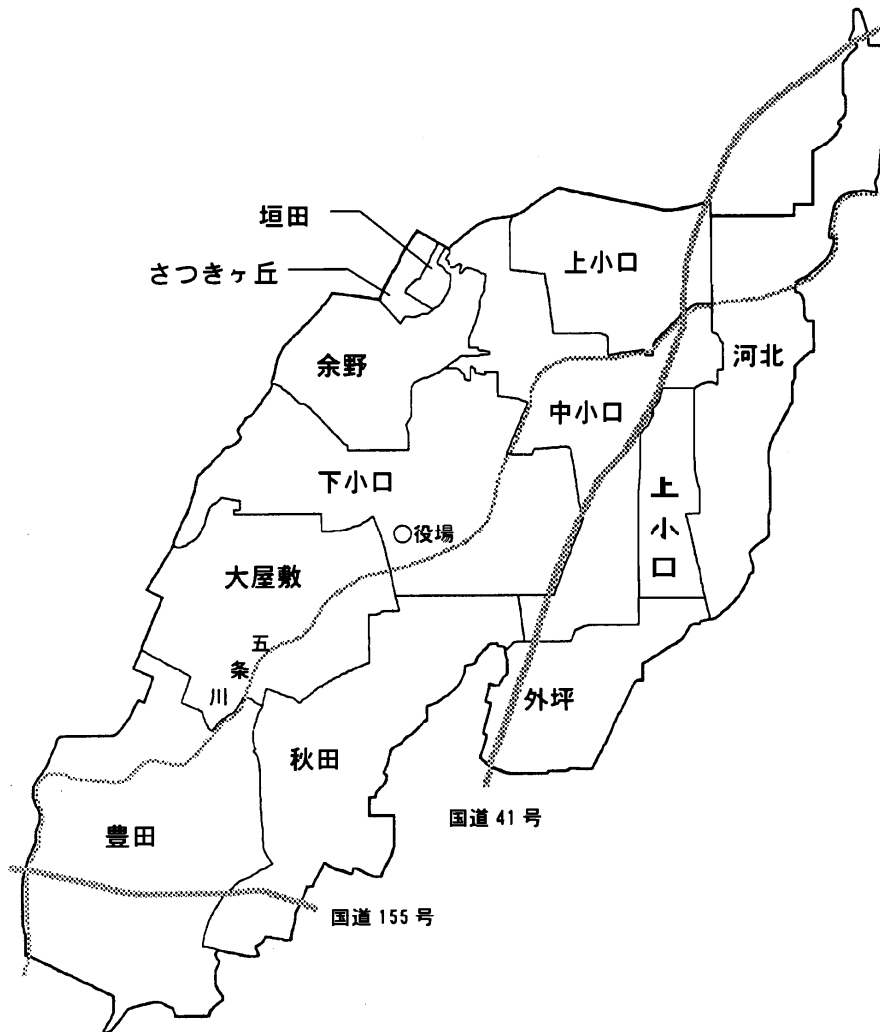
(単位：人)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,261	1,921	1,520	804	1,672	5,232
65歳以上人口	481	459	422	236	309	701
比 率 (%)	21.3	23.9	27.8	29.4	18.5	13.4

地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,594	2,209	3,926	898	822	22,859
65歳以上人口	385	442	815	219	273	4,742
比 率 (%)	24.2	20.0	20.8	24.4	33.2	20.7

(平成25年10月1日現在 住民基本台帳による)

〈行政区域図〉



4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000対)

年	種別	人口	出生				死亡				自然増加		乳児死亡(再掲)				新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚	
			総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成	2	17,464	156	82	74	8.9	85	52	33	4.8	82	4.7	-	-	-	-	(データなし)		3	3.0	7	42.9	124	7.1	17	0.97
	7	19,027	213	106	107	11.2	119	70	49	6.3	94	4.9	1	1	-	4.7	(データなし)		2	9.4	5	22.9	132	6.9	33	1.73
	17	21,602	229	123	106	10.7	157	83	74	7.4	72	3.3	1	1		4.4	-	-	-	-	9	37.8	139	6.5	44	2.1
	22	22,199	234	123	111	10.5	170	99	71	7.7	73	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	17.1	125	5.6	41	1.8
	23	22,178	221	121	100	10.0	175	91	84	7.8	46	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	13.6	127	5.7	33	1.5
	24	22,429	214	106	108	9.5	174	91	83	7.7	40	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	3	13.8	126	5.6	24	1.06
	25	22,679	199	100	99	8.8	171	98	73	7.5	28	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	24.5	118	5.2	29	1.3
愛知県	H25	7,289,000	66,818	34,133	32,685	9.2	62,393	33,284	29,109	8.6	4,425	0.6	133	77	56	2.0	58	0.9	260	3.9	1,417	20.8	42,303	5.8	13,077	1.79
全国	H25	125,704,000	1,029,800	527,651	502,149	8.2	1,268,432	658,679	609,753	10.1	-238,632	-1.9	2,185	1,193	992	2.1	1,026	1.0	3,863	3.7	24,093	22.9	660,594	5.3	231,384	1.84

※人口は、大口町が愛知県県民生活部統計課発表の総人口、愛知県及び全国が総務省統計課推計の日本人人口で各年10月1日現在である。

※愛知県・全国：愛知県衛生年報および厚生労働省人口動態より。

<率算出式>

$$\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} = \frac{\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生+死産)数}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡・新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数+早期新生児死亡数}}{\text{出生数+妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$$

5 選択死因別死亡数・率(人口10万対)年次推移

(単位：人)

年	死因	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		脳血管疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
平成	2	85	-	25	143.2	-	-	2	11.5	14	80.2	10	57.3	-	-	7	40.1	-	-	-	-	1	5.7	3	17.8	4	22.9	6	43.4	4	22.9	9	51.5		
	7	119	1	37	194.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	-	12	63.1	1	5.3	-	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3		
	17	157	-	46	216.4	2	9.4	-	-	30	141.1	19	89.4	-	-	19	89.4	3	14.1	-	-	1	4.7	4	18.8	4	18.8	6	28.2	2	9.4	21	98.8		
	22	170	-	54	243.3	1	4.7	0	0	27	127.4	11	51.9	1	4.7	22	103.8	3	13.5	0	0	1	4.5	5	22.5	10	45.0	7	31.5	4	18	24	108.1		
	23	175	-	49	220.9	1	4.5	0	0	19	85.6	19	85.6	5	22.5	25	112.7	0	0.0	0	0	3	13.5	4	18	14	6.3	6	27.1	3	13.5	27	121.7		
	24	174	-	41	181.1	1	4.4	-	-	25	110.4	16	70.7	1	4.4	23	101.6	1	4.4	-	-	3	13.3	2	8.8	20	88.4	4	17.7	6	26.5	31	136.9		
	25	171	1	49	216.1	0	-	0	-	18	79.4	16	70.5	3	13.2	21	92.6	0	-	0	-	4	17.6	2	8.8	21	92.6	5	22.0	7	30.9	24	105.8		
愛知県	H25	62,393	134	18,453	253.6	601	8.2	260	3.6	8,368	114.8	5,336	73.2	867	11.9	5,447	74.7	682	0.9	53	0.7	763	10.5	1,197	16.4	3,610	49.5	1,960	26.9	1,388	19	13,244	181.7		
全国	H25	1,268,432	2,084	364,721	290.1	13,783	11.0	7,161	5.7	196,547	156.4	118,286	94.1	16,073	12.8	122,880	97.8	16,408	1.3	1,726	1.4	15,904	12.7	25,074	19.9	69,684	55.4	39,435	31.4	26,038	20.7	232,628	185.1		

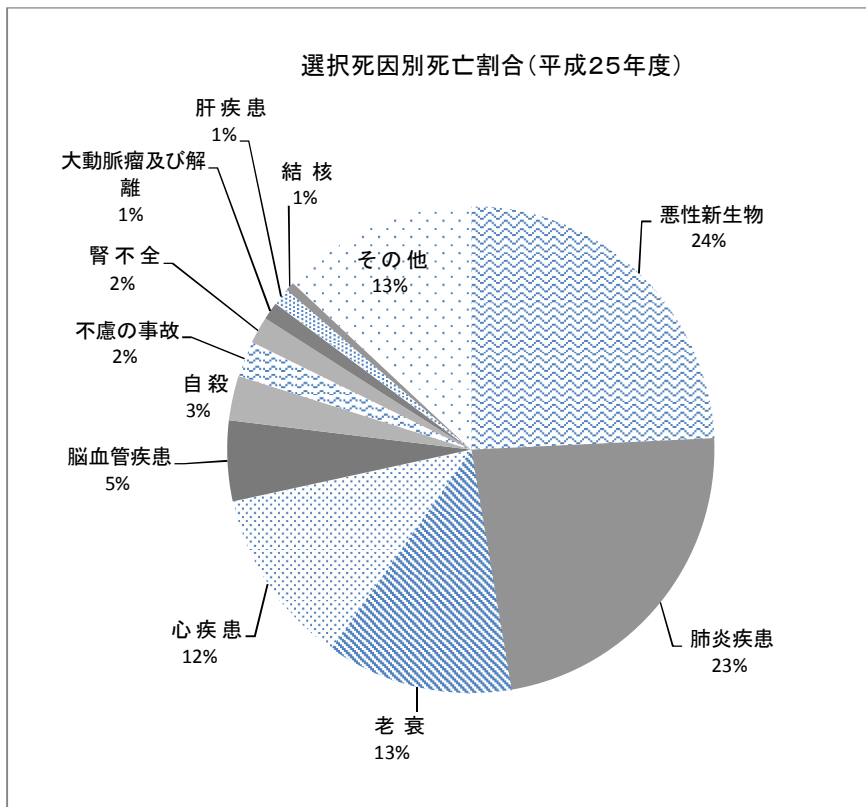
※大口町：江南保健所事業概要、愛知県：愛知県衛生年報、全国：厚生労働省人口動態より

(1) 年齢別死亡数・死亡原因（平成25年度）

（単位：人）

年齢 (歳)	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤及び解離	肺炎疾患	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺	その他	総数
0～9																	0
10～19																	0
20～29															1	1	2
30～39															1		1
40～49		1				1											2
50～59		3			2			1							1	3	10
60～69		9			1	1		3						1		2	17
70～79		14			2	2		11			1	1				5	36
80～89	1	11			11	4	2	19			1	2	9	2	1	6	69
90～		3			4	1		5					12	1	1	5	32
計	1	41	0	0	20	9	2	39	0	0	2	3	21	4	5	22	169

※平成25年4月～平成26年3月 戸籍保険課「死亡個票」より

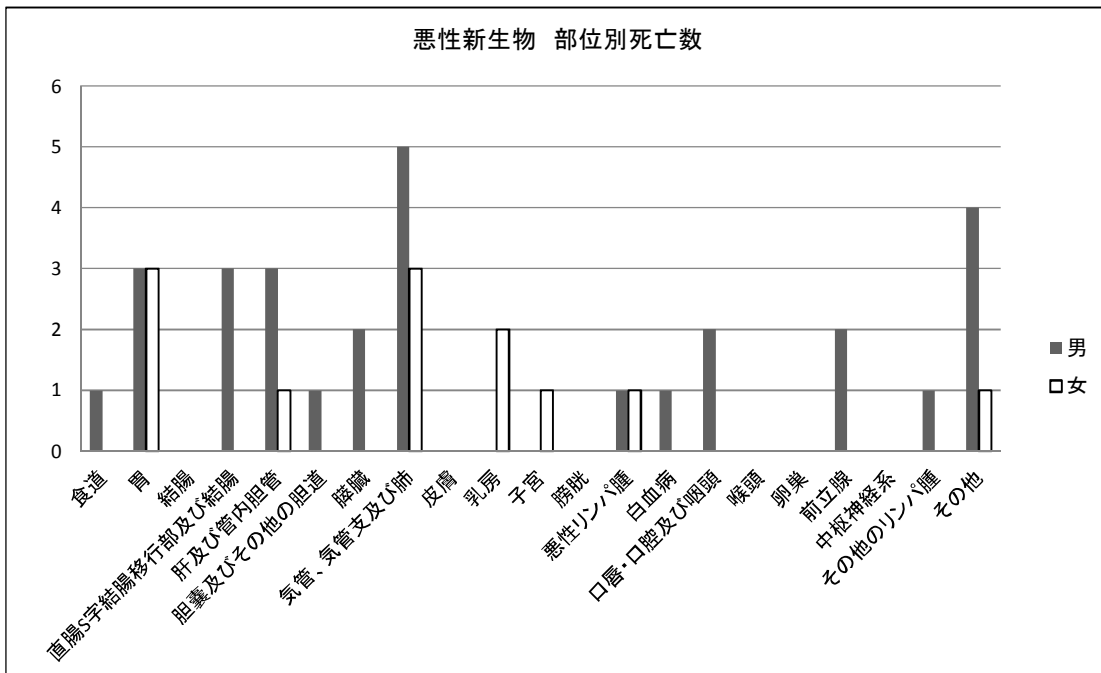


(2) 悪性新生物 部位別死亡人数 (平成25年度)

(単位：人)

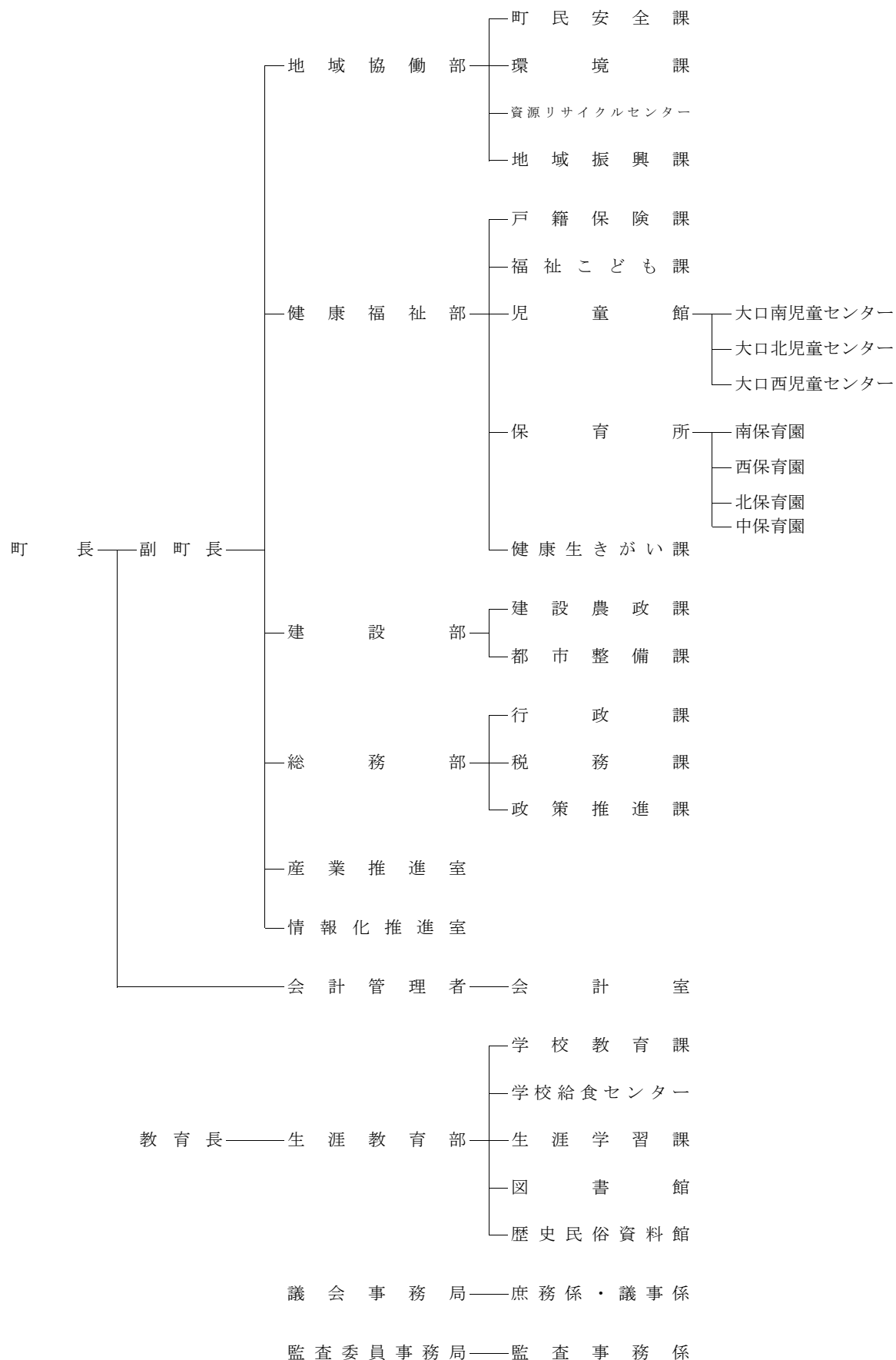
年齢(歳)	食道	胃	結腸	直腸S字結腸移行部及び結腸	肝及び管内胆管	胆嚢及びその他の胆道	膵	気管、気管支及び肺	皮膚	乳房	子宮	膀胱	悪性リンパ腫	白血病	口唇・口腔及び咽頭	喉頭	卵巣	前立腺	中枢神経系	その他のリンパ腫	その他	総数
0～9																						0
10～19																						0
20～29																						0
30～39																						0
40～49										1												1
50～59	1	1													1							3
60～69							1	3		1		1								1	2	9
70～79				1	3	1	1	3			1				1			2			1	14
80～89		4		2	1			1						1							2	11
90～		1						1					1									3
計	1	6	0	3	4	1	2	8	0	2	1	0	2	1	2	0	0	2	0	1	5	41

※平成25年4月～平成26年3月 戸籍保険課「死亡個票」より



6 大口町の組織図

平成25年4月1日現在



7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成 10 年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

(1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目 3 5 番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造 5 階建
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
 - 1 階 1,847.40 m² 保健センター（専用面積 974.78 m²）
 - 2 階 1,639.98 m² 保健センター（専用面積 611.92 m²）
社会福祉協議会
 - 3 階 1,106.63 m² 歴史民俗資料館
 - 4 階 1,106.63 m² 研修センター
 - 5 階 1,106.63 m² トレーニングセンター
 - PH 階（機械室） 167.04 m²
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造
床面積 168.00 m²
- ・駐輪場 構造 鉄骨造
床面積 40.00 m²
(延床面積 7,182.31 m²)
- ・敷地面積 10,413.95 m²
(内訳) 本 体 施 設 5,069.95 m²
ふれあい広場、駐車場 5,344.00 m²

- ・本体施設の工期
 - 着工 平成 9 年 6 月 24 日
 - 竣工 平成 10 年 9 月 24 日
- ・使用開始年月日
平成 10 年 11 月 9 日

(2) 保健センターの主要施設

- 1 階 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室
- 2 階 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室

(3) 事務分掌

- ア 予防接種に関すること。
- イ 感染症に関すること。
- ウ 救急医療に関すること。
- エ 保健センターの管理運営に関すること。
- オ 地域保健対策に関すること。
- カ 医療団体等に関すること。
- キ 母子保健に関すること。
- ク 成人保健に関すること。
- ケ 健康増進に関すること。
- コ 健康推進員に関すること。
- サ 健康おおぐち21計画の推進に関すること。
- シ 介護保険等の認定調査に関すること。
- ス 健康文化センターに関すること。
- セ その他保健衛生に関すること。

(4) 主な事業内容

母子保健…母子健康手帳交付説明会、妊婦相談、妊婦・乳児健康診査、妊婦歯科健診、フレッシュママの会、乳幼児健康診査（4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児）、離乳食教室、子育て相談室、たんぼぼ教室、2歳3か月児歯科健診、一般不妊治療費助成事業、子育てサークル等支援

成人保健…住民結核検診、特定健康診査・特定保健指導、肝炎ウイルス検診、がん検診（胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺）、一般健康診査、わかば健康診査、骨密度測定、健康手帳交付、健康相談、栄養相談、歯科相談、歯周病予防健診、わかば健診事後指導、高齢者の健康づくり教室（しなやかお達者の会、ひだまりの会）、歩く健康の集い、健康づくり自主グループ支援、依頼による健康教育

予防接種…集団接種：BCG接種

個別接種：四種混合、三種混合、二種混合、急性灰白髄炎（ポリオ：不活化ワクチン）、麻疹・風疹混合（MR）、麻疹、風疹、日本脳炎、ヒブ、小児肺炎球菌、子宮頸がん、インフルエンザ（65歳以上等）

任意接種：高齢者肺炎球菌（助成事業）

家庭訪問…出生児（原則）全員、低出生体重児及び里帰り等の希望者、乳幼児健診事後フォロー、虐待予防、精神障害者、介護保険認定調査等

健康推進事業…健康おおぐち21計画推進事業、健康推進員活動、健康まつり等

その他…健康文化センター維持管理

8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に関する連絡会開催(月1回) ・BCG直接接種となる(4月) ・日本脳炎予防接種の積極的接種勧奨を見合わせる(5月) ・日本脳炎予防接種第3期接種を廃止(7月) ・二種混合予防接種第1期接種を廃止(7月) ・ちゅーりっぷの会中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査を除く各種検診を有料とする ・歯周病予防健診(節目年齢)を医療機関委託で実施(8月～10月) ・わかば健診時歯科健診実施 ・8020運動表彰を「健康ウォーク&元気まつり」時に実施 ・介護予防教室(しなやかお達者教室)をあいち健康プラザとタイアップで実施 ・大屋敷ひだまりの会休止(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行(4月) ・発達障害支援法施行(4月) ・医療観察法施行(7月) ・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会を1本化し協働事業で実施 ・健康おおぐち21シンボルマーク愛称公募し決定(11月) ・第6次大口町総合計画策定(3月) ・保健師1名退職(3月) ・大口町母子通園事業試行(4月～3月) ・在宅介護支援センター廃止(3月) ・看護師1名育休(1月～3月)
18	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん混合ワクチン接種施行(4月) ・個別予防接種が二市二町共通要領にて実施となる(4月) ・麻しん及び風しんの単抗原ワクチンも法定内接種となる(6月) ・母親教室の名称を変更し、内容を改編し、パパママ教室を育児編・栄養編として実施(各年6回) ・たんぼぼ教室を月2回実施 ・9か月児健診を10か月児健診とする ・マニティキーホルダーを希望者に配布開始(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室(しなやかお達者教室)を豊田地区で実施 ・男性のための健康づくり教室元気UPヘルシーライフ教室実施 ・住民結核検診の対象が40歳以上となる ・ひだまりの会(中小口)の健康チェックをハートフルへ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを町直営で開始(保健師1名福祉課へ異動) ・看護師1名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名産育休(9月～3月) ・改正介護保険法の施行 ・がん対策基本法の制定(6月)(施行は19年4月) ・障害者自立支援法の施行(4月) ・高齢者・障害者等の移動等の円滑化に関する法律(新バリアフリー法)の制定(6月) ・健康保険法等の一部改正法(医療制度改革関連法)制定・公布(7月) ・歯科衛生士(臨時)1名常勤採用(4月) ・母子通園事業本格実施

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
19	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科健康診査を医療機関に委託で実施 ・プレママ交流会（栄養編・育児編）の実施 ・歯科健診の対象者を2歳3か月児とする ・1歳6か月児健診時の歯科染めだしを廃止 ・子育て相談室に心理相談員を組み入れる ・西小学校区連絡会発足（健康部会に参加） ・妊婦健康診査の公費負担を4～9月までは4回、10月から7回で実施 ・一般不妊治療費の助成を実施（10月） ・予防接種法施行規則の一部を改正する省令施行（12月） ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令（20年1月） ・麻疹に関する特定感染症予防指針（20年1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん健診の医療機関での視触診のみを廃止、集団での超音波による健診を導入 ・国保連合会事業として「ヨーガ」教室を実施 ・介護予防事業のための人材育成（貯筋体操ひろめ隊）講座を実施 ・介護予防連絡会開始（地域包括支援センターより発信） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休（4月～3月） ・管理栄養士1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（9月～3月） ・健康おおぐち21中間評価を実施 ・健康まつり運営事業を「健康クラブ笑顔21」と協働契約で委託実施 ・老人保健法の改正（20年3月）
20	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期・4期麻疹風しん混合ワクチン接種施行（5月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国保連合会事業として生き生き教室実施 ・特定健診、特定保健指導開始（4月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（11月～3月） ・老人保健法の改正により、法律名が「高齢者の医療の確保に関する法律」に変更され施行（4月）
21	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査の公費負担を14回で実施 ・日本脳炎ワクチンに加え、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」を定期的予防接種に用いるワクチンとして追加する（6月） ・予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん・子宮がん検診実施医療機関を拡大 ・女性特有のがん検診推進事業開始（9月） 	<p>機構改革により、健康課から健康生きがい課となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師2名採用 ・看護師1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（4月～3月） ・保健師1名育休（5月～3月） ・保健師1名育休（3月～） ・アメリカで豚由来のインフルエンザウイルスの患者を確認と公表 ・WHO「フェーズ6（流行）宣言」 ・国「基本的対処方針」策定 ・国「新型インフルエンザワクチン接種の基本方針」策定

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳に対する日本脳炎初回接種の積極的勧奨が再開(4月) 日本脳炎ワクチンが使用不可となり、「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」のみの使用 第2期接種再開となる 9歳以上13歳未満で第1期末接種者を接種対象とする特例が出る(8月) ・「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例基金事業」により、子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部助成が開始(1月) ・妊婦健康診査の公費負担項目に子宮頸がん、GBSが追加。超音波検査の年齢条件がなくなり、検査は4回実施。乳児健康診査受診票が1回のみとなる ・パパママ教室、プレママ交流会の休止 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性特有のがん検診事業 クーポン券5月に発送 1月に未受診者に受診勧奨通知 ・前立腺がん検診定員を拡大 ・介護・保険・健康の連携した取り組みを開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師3名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名育休(4月～3月) ・保健師1名退職(12月) ・地域包括支援センターをハートフル大口へ委託(4月) ・新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチン接種事業が終了(23年3月)
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健診8回目にHTLV-1とクラミジア抗体検査を追加 ・子育て相談室の第1週目を廃止(平成24年1月～) ・4か月健診時 母乳相談を開始(平成24年1月～) <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本脳炎の年齢枠が拡大(H7.6.1生まれ～H19.4.1生まれ 20歳未満の間接種可に) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかば健診時に実施していた歯科健診を中止 ・大腸がん検診を各種集団がん検診時に申し込みできる体制にする。 ・高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成事業開始(6月～) ・歯周病予防健診を年間を通じて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師1名戸籍保険課へ異動 ・看護師1名産休育休(9月～3月) ・保健師1名育休(4月～3月) ・保健師1名退職(3月) ・歯科口腔保健の推進に関する法律(平成23年8月10日公布) ・ドアノッキング事業開始(24年1月～)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
24	<ul style="list-style-type: none"> ・北児童センターにて出張子育て相談を実施（単年） ・一般不妊治療費助成事業の助成内容の変更（対象となる治療内容と助成額） <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～尾張北部医療圏域内での広域予防接種の開始 ・9月～ポリオに係る使用ワクチンが“生ワクチン”から“不活化ワクチン”に変更 ・11月～ジフテリア・破傷風・百日せき・ポリオ予防接種に使用するワクチンに「四種混合ワクチン」が追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のがん検診の同日開催の実施 ・国保連合会事業としてポールウォーキング教室（12回）の実施 ・ポールウォーキングの自主グループの立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休（4月～3月） ・保健師1名産休育休（5月～3月） ・保健師1名採用（任期付き） ・健康実態調査の実施 ・大口町制50周年 ・電算システム「super保健師さん」から「健康かるて」へ変更
25	<ul style="list-style-type: none"> ・低出生体重児訪問の実施（未熟児訪問、未熟児養育医療給付の市町村への権限移譲） <p><予防接種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCG ワクチンの接種期間の延長 ・子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌予防接種の定期接種の実施 ・子宮頸がん予防接種の積極的勧奨の差し控え（6月～） ・妊娠を予定または希望する女性とその夫に対する風しんワクチン接種費用の助成（7月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関胃がん検診に胃内視鏡検査を導入 ・がん検診実施医療機関の追加（山田外科内科、みどりクリニック、伊藤整形外科あいち腰痛オペクリニック） 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種法の改正（平成25年3月30日公布、4月1日施行） ・健康おおぐち21 第二次計画策定（平成26年3月）

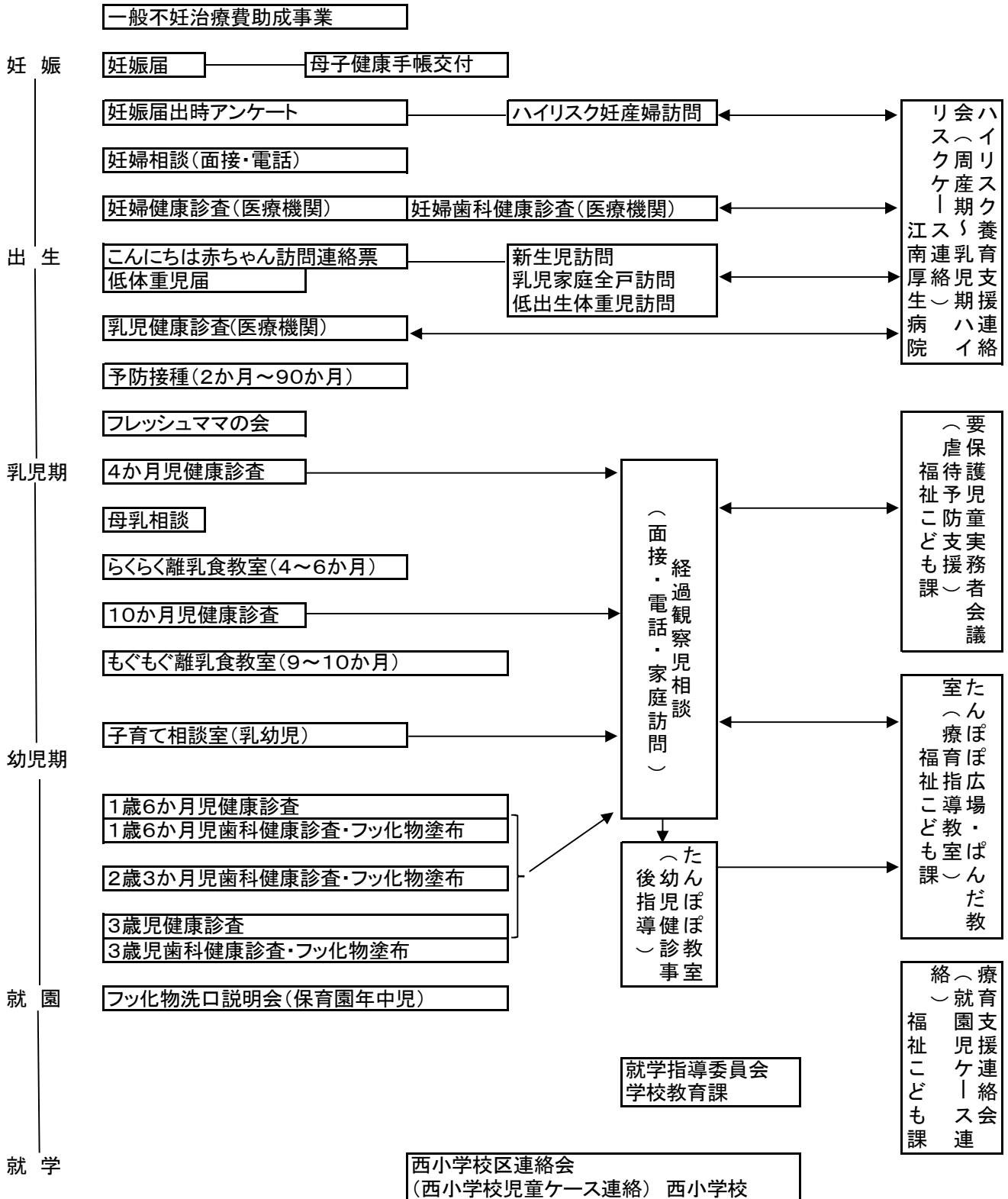
※平成元年～15年までは「平成21年度保健活動のまとめ」、16年は「平成22年度保健活動のまとめ」に記載。

2 母子保健活動

1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業では、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛されかつ心身ともに健やかに育つことを目指し、子どもの発達や親の育児力に合わせた保健指導を行った。支援が必要なケースについては、医療機関や母子通園施設、福祉こども課等関係機関と連携して就学前まで継続的な子育て支援を行った。

母子保健 管理体系



2 一般不妊治療費助成事業

不妊症と診断され人工授精の治療を受けた夫婦を対象に、治療に要した自己負担額の1/2相当額を1年度あたり45,000円を限度に助成した。

(1) 助成状況 (単位：人)

年度	申請件数(新規申請)	母子健康手帳交付
H23	25 (11)	7
H24	8 (1)	4
H25	8 (6)	1

※H24年4月診療分から助成対象を性タイミング療法、人工授精等の一般不妊治療のうち保険適応外の人工授精に限定。

3 母子健康手帳の交付

妊娠の届出により保健師が母子健康手帳を交付し、妊婦の健康を守り健全な児を産み育てることができるよう保健指導を実施した。

(1) 日 時 説明会：毎月第1・3木曜日 午前10時～11時30分
随時

(2) 内 容 母子健康手帳の使い方 妊娠中の生活についての話
説明会は妊娠中の過ごし方・食生活・口の手入れの話、出産経過のビデオ視聴、交流会を実施。

(3) 従事者 保健師 歯科衛生士 管理栄養士

(4) 妊娠届出者の状況 (単位：人)

年度	妊娠届出数	妊娠週数				
		11週以内	12～19週	20～27週	28週以上	分娩後
H24	206	175 (85.0%)	24 (11.7%)	4 (1.9%)	3 (1.5%)	0 (0.0%)
H25	233	203 (87.1%)	29 (12.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

(単位：人)

年度	年齢		初産婦	就業有	喫煙有	飲酒有
	20歳未満	40歳以上				
H24	3 (1.5%)	6 (2.9%)	101 (49.0%)	112 (54.4%)	10 (4.9%)	1 (0.5%)
H25	5 (2.1%)	7 (3.0%)	105 (45.1%)	121 (51.9%)	6 (2.6%)	1 (0.4%)

4 子育て相談室

育児不安等の問題を抱える保護者が、安心して育児に取り組めるよう発育相談、育児相談、栄養相談、発達相談を実施した。

- (1) 日 時 毎月第3月曜日 午前9時～11時30分（心理相談員による発達相談は奇数月）
助産師による母乳相談は毎月第4水曜日 午後1時30分～2時15分
- (2) 内 容 身体計測 育児相談 経過観察児相談 母乳相談
- (3) 従事者 保健師 看護師 管理栄養士 心理相談員 助産師
- (4) 相談者の状況 (単位：人)

年度	相談者総数		再掲					
			妊婦		乳児		幼児	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
H24	137	157	1	1	67	79	69	77
H25	220	291	0	0	103	159	117	132

<内訳> (単位：人)

従事者	相談者総数<重複>		再掲					
			妊婦		乳児		幼児	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
保健師	113	123	0	0	29(17)	35(20)	84(71)	88(73)
助産師	37	45	0	0	35	41	2	4
栄養士	28	34	0	0	16(7)	21(11)	12(6)	13(7)
心理相談員	14	15					14(14)	15(15)
検尿	19	19	0	0			19(19)	19(19)
身体計測のみ	34	68			34	68		

※ () 健診事後指導者数再掲

5 フレッシュママの会

育児の悩みを抱えやすい産後間もない母親同士が、悩みを共感し前向きに育児に取り組めるよう仲間づくりを目的として、生後1～3か月児の母親を対象に開催した。

- (1) 日 時 偶数月第4金曜日 午後1時30分～3時
- (2) 内 容 身体計測 座談会 ベビーマッサージ 予防接種の話
- (3) 従事者 助産師 保健師 看護師
- (4) 参加状況

年度	実施回数	参加数 (初産再掲)
H23	6回	85 (51) 組
H24	6回	67 (45) 組
H25	6回	64 (42) 組

6 離乳食教室

(1) 目的及び対象者等

	らくらく離乳食教室（前期）	もぐもぐ教室（後期）
目的	離乳食の開始から7か月頃の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。	咀嚼の促しの必要性や歯の萌出に合わせた離乳食の形態を理解し作ることができる。また、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。
対象者	生後5～7か月児とその保護者	生後8～11か月児とその保護者
日時	奇数月第3水曜日（年6回） 午前10時～11時30分	偶数月第3水曜日（年6回） 午前9時30分～11時30分
内容	<ul style="list-style-type: none"> 離乳食の開始から7か月頃の講話 離乳食のデモンストレーションとその試食 個別相談（希望者） 	<ul style="list-style-type: none"> 9か月頃以降の進め方についての講話 調理実習（親の食事からの取り分け食） 試食と個別相談（希望者）
従事者	管理栄養士 看護師	
場所	健康文化センター1階 栄養実習室・栄養指導室	

(2) 参加状況

(ア) らくらく離乳食教室の参加内訳

参加人数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児	個別相談者
64人	15人	47人	2人	37人

※1回当たり10.7人の参加

(イ) もぐもぐ教室の参加内訳

参加人数	9か月未満児	9・10か月児	11か月以上児	個別相談者
53人	9人	36人	8人	49人

※1回あたり8.8人の参加

らくらく離乳食教室では、離乳食開始時期を生後6か月以降に計画する保護者が増え、食物アレルギーなどへの不安やすすめ方に不安を感じる保護者が多い。もぐもぐ教室では、食材の形態と子どもの食欲や咀嚼の状況及び歯の萌出等の要素がかみ合っていない親子が多い。保護者が正しい知識を持ち、口腔発達の段階を理解し、個々の発達段階や欲求に応じてスムーズに離乳食を進めていけるよう、健診や乳児相談の場でポイントを押さえて支援する必要がある。

7 たんぽぽ教室

1歳6か月児及び3歳児健康診査等で育児や発達について経過観察が必要となった親子に対し、集団の場を体験しながら子どもに合わせた関わりを学び考えていくことで、よりよい発達を促すことを目的に教室を開催した。教室を終了した親子には、必要に応じ継続して療育指導を受けられるよう母子通園施設や地域の集団体験の場であるたんぽぽ広場の参加を勧奨した。

- (1) 日 時 毎月第2・4木曜日 午前9時45分～正午
(スタッフカンファレンスは午前9時15分～9時45分、午後1時～3時)
- (2) 参加回数 1クール6回 (必要に応じ2クールまで継続参加)
- (3) 従事者 保健師 保育士 心理相談員 (第2木曜日) 言語聴覚士 (第4木曜日)
家庭児童相談員 (年12回) 母子通園施設保育士 (年5回)
- (4) 内 容

時 間	内 容
9:45～10:00	出席シール貼り
10:00～11:00	自由遊び、あいさつ、体操 ふれあい遊び、手遊び、絵本よみきかせ 設定遊び (新聞、粘土、風呂敷、お絵描き、サーキット、制作)
11:00～11:30	母子分離 (1クール2回実施。母親：心理相談員か言語聴覚士によるグループ話し合い、子ども：自由遊び)
11:30～正午	個別相談 (3回目・6回目)

- (5) 実施状況 (単位：人)

年度	回数	参加人数	
		実人数	延人数
H23	24	52	267
H24	24	42	262
H25	24	49	234

- (6) 参加者年齢内訳

H22年4月～H23年3月生まれの子 (次年度就園対象年齢) 25人
H23年4月～H24年3月生まれの子 24人

- (7) 教室終了後の状況

母子通園施設を紹介 15人 (内参加希望なし5人、転出1人)
たんぽぽ広場を紹介 16人 (内参加希望なし3人、転出1人、母子通園勧奨者1人)
次年度継続参加を案内 12人
終了 7人 (内転出2人、就園5人)

8 家庭訪問

乳児家庭全戸訪問事業においては、乳児家庭の孤立化を防ぐために助産師か保健師が生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、親子の健康状態や養育環境の把握や助言を行った。また、若年や妊娠高血圧症等のハイリスク妊婦や発達や発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある親子、乳幼児健診未受診者に対し、安心して出産、育児ができるよう家庭を訪問し支援した。

(1) 従事者 保健師 助産師

(2) 実施状況 (単位：人)

	妊婦		産婦		新生児		低出生体重児		乳児		幼児	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
実施数	0	0	203	203	16	17	16	17	179	186	26	67
(再掲) 乳児家庭全戸訪問 事業					15		15		170			

(3) 低出生体重児の状況 (単位：人)

年	出生数	低体重児出生数	率 (%)	1,300g	1,300g	1,500g	1,800g	2,000g	2,300g
				未満	～ 1,499g	～ 1,799g	～ 1,999g	～ 2,299g	～ 2,499g
H23	221	26	11.8	1	1	4	4	4	12
H24	214	23	10.7	3	0	0	1	1	18
H25	199	12	6.0	—	—	—	—	5	7
愛知県 (名古屋を除く)	47,326	4,612	9.7	224	108	241	320	1,319	2,400

江南保健所事業概要より

9 妊婦乳児健康診査

妊娠の正常な経過や安全な分娩、乳児の発達を支援するため、定期的な受診ができるように14回分の妊婦健康診査及び1か月児健康診査に対し受診票を発行し健診費用を助成した。

受診票利用状況 (平成25年4月～平成26年3月受診)

内容	受診者数 (人)	医師判定(人)		所見(人)		
		異常なし	異常あり	蛋白尿 (2+以上)	尿糖 (2+以上)	貧血*
子宮頸がん	208(0)	202	6			
第1回	223(4)	216	7	2	3	0
第2回	208(3)	200	8	3	3	
第3回	202(3)	193	9	0	2	
第4回	221(3)	210	11	1	5	
第5回	203(3)	198	5	0	4	
第6回	198(3)	195	3	3	9	
第7回	191(5)	186	5	0	9	
第8回	214(6)	145	69	1	3	30
第9回	187(8)	180	7	2	2	
第10回	196(12)	170	26	2	2	
第11回	177(11)	169	8	0	4	
第12回	188(12)	141	47	4	3	49
第13回	126(8)	123	3	1	2	
第14回	77(6)	74	3	0	1	
1～14回合計	2611 (87)	2,400	211	19	52	79
乳児健康診査	196	190	6			

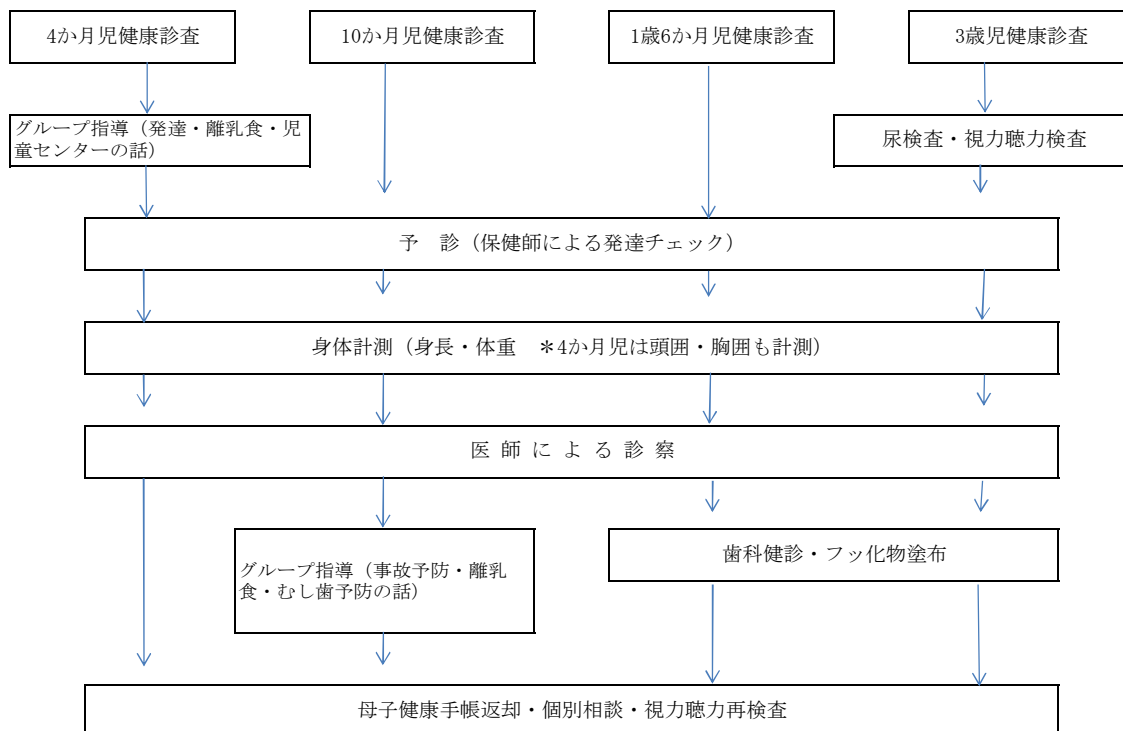
() 内は県外受診の再掲

* 血色素11.0g/dl未満

10 乳幼児健康診査

乳幼児期の大切な節目である時期に、先天性異常や視聴覚、運動機能、精神発達等の異常を早期に発見し、適切な指導を行い心身障害の進行を未然に防止するとともに、むし歯の予防、発育、栄養、生活習慣、その他の育児に関する指導を行い、乳幼児の健康の保持及び増進を図ることを目的として乳幼児健康診査を実施した。

(1) 内容



(2) 4か月児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H24	12	217	217	100.0%	170 (78.3)	27 (12.4)	13 (6.0)	2 (0.9)	5 (2.3)
H25	12	208	208	100.0%	180 (86.5)	14 (6.7)	11 (5.3)	0 (0.0)	3 (1.4)
愛知県 (H24)		49,940	48,959	98.0%	81.2%	6.3%	8.1%	1.4%	3.0%

4か月児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因 (発達)				子の要因 (その他)				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H24	213 (98.2)	0 (0.0)	4 (1.8)	0 (0.0)	195 (89.9)	3 (1.4)	18 (8.3)	1 (0.5)	201 (92.6)	10 (4.6)	6 (2.8)	0 (0.0)	217 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
H25	207 (99.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	179 (86.1)	3 (1.4)	26 (12.5)	0 (0.0)	191 (91.8)	2 (1.0)	15 (7.2)	0 (0.0)	207 (99.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
愛知県 (H24)	91.6%	3.6%	4.6%	0.2%	79.5%	12.3%	6.7%	1.6%	88.7%	7.0%	4.1%	0.2%	98.9%	0.80%	0.31%	0.04%

(3) 10か月児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H24	12	219	216	98.6%	198 (91.7)	15 (6.9)	2 (0.9)	1 (0.5)	0 (0.0)
H25	12	224	220	98.2%	198 (90.0)	17 (7.7)	4 (1.8)	1 (0.5)	0 (0.0)

10か月児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因（発達）				子の要因（その他）				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H24	195 (90.3)	5 (2.3)	16 (7.4)	0 (0.0)	203 (94.0)	2 (0.9)	11 (5.1)	0 (0.0)	181 (83.8)	22 (10.2)	13 (6.0)	0 (0.0)	215 (99.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
H25	209 (95.0)	0 (0.0)	11 (5.0)	0 (0.0)	199 (90.5)	2 (0.9)	17 (7.7)	2 (0.9)	183 (83.2)	23 (10.5)	14 (6.4)	0 (0.0)	220 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

(4) 1歳6か月児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H24	13	248	244	98.4%	214 (87.7)	12 (4.9)	18 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
H25	12	202	194	96.0%	157 (80.9)	16 (8.2)	21 (10.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
愛知県 (H24)		50,740	49,127	96.8%	84.4%	4.8%	8.4%	0.7%	1.7%

1歳6か月児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因（発達）				子の要因（その他）				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H24	93 (38.1)	6 (2.5)	145 (59.4)	0 (0.0)	234 (95.9)	5 (2.0)	5 (2.0)	0 (0.0)	215 (88.1)	16 (6.6)	13 (5.3)	0 (0.0)	244 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
H25	72 (37.1)	0 (0.0)	122 (62.9)	0 (0.0)	187 (96.4)	2 (1.0)	4 (2.1)	1 (0.5)	166 (85.6)	11 (5.7)	17 (8.8)	0 (0.0)	193 (99.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
愛知県 (H24)	52.1%	17.1%	30.2%	0.7%	84.8%	9.9%	4.2%	1.1%	85.5%	9.6%	4.6%	0.2%	98.0%	1.4%	0.5%	0.1%

(5) 3歳児健康診査結果

(単位：人・%)

年度	実施回数	対象者数	受診者数	受診率	医師総合判定				
					異常なし	既医療	要観察	要医療	要精密
H24	12	213	208	97.7%	157 (75.5)	8 (3.8)	17 (8.2)	0 (0.0)	26 (12.5)
H25	12	239	238	99.6%	189 (79.4)	2 (0.8)	7 (2.9)	1 (0.4)	39 (16.4)
愛知県 (H24)		50,760	48,697	95.9%	77.4%	4.5%	9.1%	0.9%	8.2%

3歳児健康診査要因別支援判定

(単位：人・%)

年度	子の要因（発達）				子の要因（その他）				親・家庭の要因				親子の関係性			
	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携	支援不要	助言・情報提供	保健機関支援	他機関連携
H24	130 (62.5)	12 (5.8)	50 (24.0)	16 (7.7)	206 (99.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	198 (95.2)	6 (2.9)	4 (1.9)	0 (0.0)	208 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
H25	143 (60.1)	3 (1.3)	75 (31.5)	17 (7.1)	222 (93.3)	1 (0.4)	14 (5.9)	1 (0.4)	222 (93.3)	6 (2.5)	9 (3.8)	1 (0.4)	236 (99.2)	0 (0.0)	2 (0.8)	0 (0.0)
愛知県 (H24)	69.5%	14.8%	13.2%	2.6%	72.7%	13.8%	12.0%	1.6%	89.4%	7.4%	2.9%	0.3%	98.0%	1.5%	0.5%	0.1%

1 1 子育て支援・他機関との連携

(1) 赤ちゃん抱っこ体験（中学生子育て体験）

大口町次世代育成支援後期行動計画の「次代の親を育むための教育」として、中学生が乳幼児とのふれあいを通じて自分を大切にすることが大切にする気持ちや命の尊さ、人を思いやる心を養うことを目的として開催された。（主催：福祉こども課）

ア 日時・場所・参加者（中学生）

平成25年8月5日（月）午前10時～正午・北児童センター・16人

イ 従事者

児童センター厚生員 保健師 中学校養護教諭 子育てネットワーカー

(2) 療育支援連絡会

乳幼児期の療育支援のあり方についての検討会や要支援ケースの情報交換を目的として開催された。（主催：福祉こども課）

ア 日時

平成25年5月9日（木） 8月8日（木） 11月7日（木） 平成26年2月6日（木）

午後3時～5時15分

イ 出席者

保育長 保育所主査（保育園・母子通園） 児童館主査（児童センター）
家庭児童相談員 保健師

(3) 西小学校区連絡会

大口町の子どもたちを取り巻く様々な現状や課題について情報交換及び検討することを目的として開催された。（主催：西小学校）

ア 日時

<支援部会>平成25年4月23日（火） 6月12日（水） 11月12日（火）

平成26年2月18日（火） 午後4時～5時

<健康部会>平成25年12月17日（火） 午後3時30分～4時

イ 出席者

西小学校 中学校 幼稚園 保育園（北・西） 西児童センター 保育長 保健師

(4) 要保護児童実務者会議

児童虐待に関する情報交換及び要保護児童等の実態把握、支援体制の検討を目的として開催された。（主催：福祉こども課）

ア 日時

毎月第1木曜日 午後2時～3時

イ 出席者

一宮児童相談センター（児童福祉司） 尾張福祉相談センター（家庭児童相談員）

江南保健所（保健師） 福祉こども課 学校教育課 健康生きがい課（保健師）

(5) ハイリスク養育支援連絡会

江南厚生病院こども医療センター、NICU・GCU病棟、産婦人科を含む女性病棟、小児科及び産婦人科外来と、保健所、市町保健センターが連携を図り、ハイリスク児またはハイリスクの可能性のある児の家庭における育児支援体制を円滑にするための情報交換をすることを目的として開催された。（主催：江南厚生病院）

ア 日時

平成25年5月28日（火） 8月27日（火） 11月26日（火） 平成26年2月25日（火）
午後4時～5時

イ 出席者

江南厚生病院（こども医療センター 産婦人科病棟 NICU・GCU 小児科外来
産婦人科外来 医療福祉相談室）

江南保健所

保健センター（岩倉市 江南市 犬山市 扶桑町 大口町）

(6) ドアノッキング事業

子育てに悩み家にひきこもりがちになってしまう乳幼児期の子育て家庭に対し、地域ぐるみで家庭を見守り子育てを支援することで虐待を防止することを目的に、子育て情報のお知らせ等を行うドアノッキング訪問が実施された。（主催：福祉こども課）

ア 訪問時期

生後5～6か月と1歳頃

イ 従事者

主任児童委員

民生委員・児童委員

(7) たんぼぼ広場

たんぼぼ教室を終了した親子が就園するまで継続して地域で療育支援を受けられるよう西児童センターにおいて親子遊びの教室が開催された。（主催：福祉こども課）

(8) 保育園児に向けた食育の取り組み

町立保育園において様々な食育の取り組みの中で保育園栄養士と連携し、給食を題材に体への効果を理解し、好き嫌いなく、バランスよく食べるポイントを園児に啓発した。

実施月及び対象児	内 容	参加人数
12月中 各保育園年長児クラス	「食べ物と身体機能（腸）について」 ・朝食の喫食状況の聞き取り ・食べ物からうんちができるまで	151人
1月中 各保育園年中児クラス	「好き嫌いなく食べて、いいうんちを出そう」 ・朝食の喫食状況の聞き取り ・野菜の働き	166人
2月中 各保育園年少児クラス	「好き嫌いなく食べて、いいうんちを出そう」 ・朝食の喫食状況の聞き取り ・野菜の断面クイズ ・うんちの形と野菜の働き	107人

(9) 適応指導教室に通う生徒への食育の取り組み

学校教育課との連携により、適応指導教室に通う児童・生徒の仲間意識のきっかけづくりの場として、また食材を通して家庭科学習と社会科学習の要素を加えて調理実習を行った。調理実習の献立は生徒達で考え、材料の調達もその一環とした。

適応指導教室に通う生徒の中には、普段家庭で調理を担っている生徒もおり、「興味のあるところから学習意欲を育てたい」「共同作業することで仲間意識を育てたい」という実習目的もあり、適応指導教室の指導員も含めた打ち合わせを行い実施した。

ア 実施日時

平成26年2月26日（水）

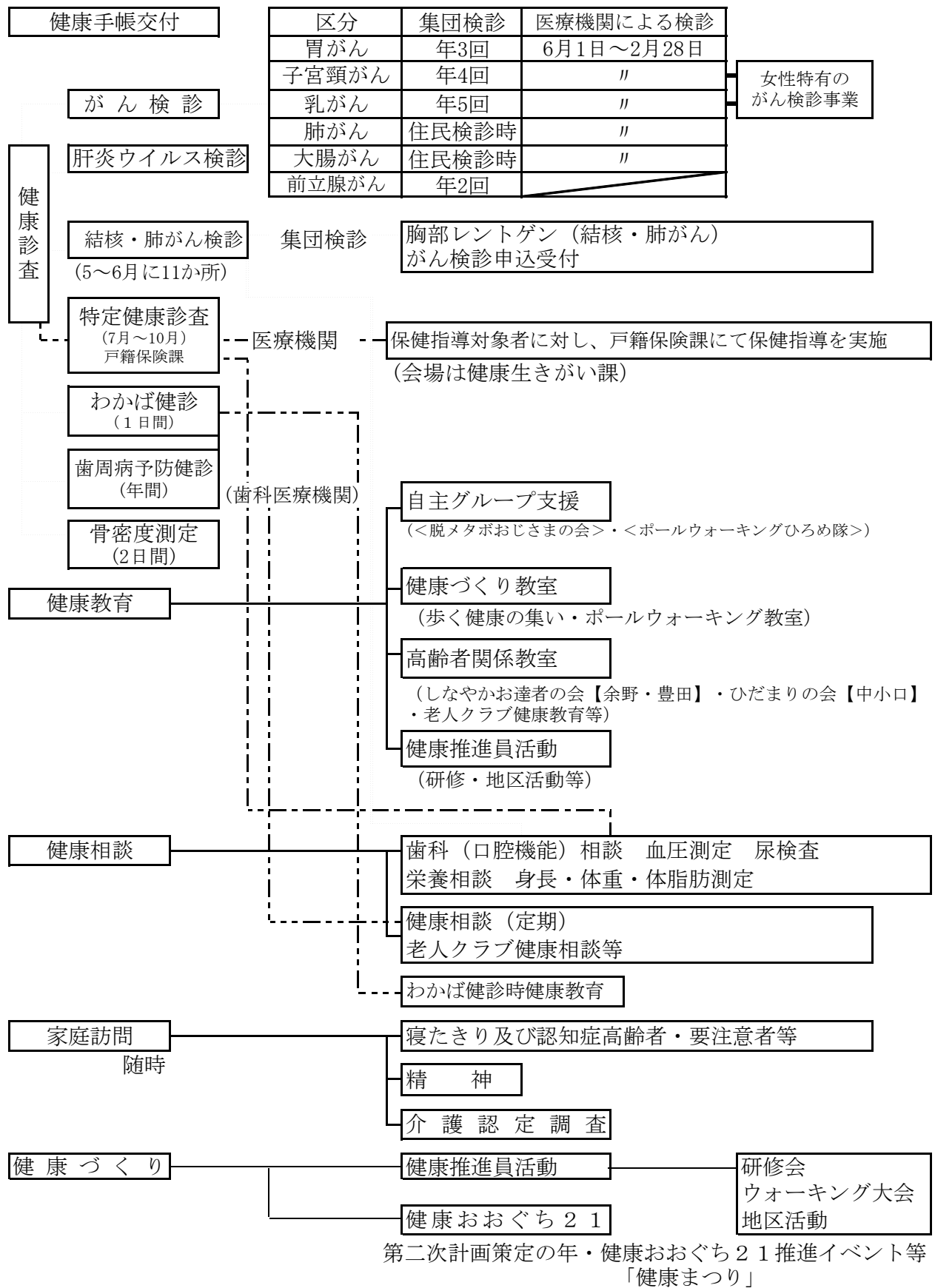
イ 従事者

適応指導教室指導員 2人

学校教育課職員（事務）・健康生きがい課（管理栄養士）

3 成人保健活動

成人保健 管理体系



1 成人保健の取り組み

健康増進法に基づき実施する。住民の健康意識の高揚、よりよい健康習慣の定着を図ることにより、健康増進、疾病予防、介護予防などに役立てる。

大口町は、平成5年12月に「健康の町」宣言をし、平成16年3月には大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と行政とともに策定し、地区住民の意識の高揚と地区活動を積極的に推進してきた。平成25年度は健康おおぐち21第二次計画の策定を行った。

＜平成25年度の重点的な取り組み＞

- ① がん検診等の受診率向上に向けた取り組み
 - ・新規事業として、胃がん検診の内視鏡検査を医療機関で実施した。
 - ・新規受診者を増やすため3年間がん検診を受けたことのない人に受診勧奨通知を実施。
 - ・がん検診周知の街頭活動、幼稚園・町立保育園の保護者全員にがん検診チラシの配布。
 - ・女性特有のがん検診未受診者に受診勧奨通知を実施。
 - ・受診しやすい体制整備として複数のがん検診の同日開催を実施。
 - ・歯周病のハイリスク者への受診勧奨を実施し、歯周病について重点課題として健康教育や健康推進員研修会で講演会を実施
- ② ポールウォーキングの推進
 - ・国保連合会健康体操普及事業としてポールウォーキング教室（12回）を実施、その後、自主グループへの移行やリーダーの養成を行った。
 - ・健康まつりやさくら並木ジョギングなど様々な機会を通して普及啓発を行った。
- ③ 国保・介護・健康・福祉の各グループの連携した取り組み
 - ・各グループが連携し、「血管を守ろう！」をテーマに健康寿命を延ばす取り組みを展開。
 - ・「10年後も元気」を合言葉に2万人体力測定を実施。
- ④ 健康面での自己管理の意識づけの取り組み
 - ・自己管理の意識づけと検診記録の管理のために検診パスポートを作成し、集団検診や医療機関での検診時に配布した。

2 健康手帳の交付

(1) 目的

健康増進法に基づいて交付。特定健康診査・保健指導の記録、がん検診時などの検診結果や血圧測定値等の健康状態を記入し、自らの健康への意識の向上を図る。

検診の意識づけと管理のために検診パスポートを配布する。

(2) 対象 20歳以上の住民、その他希望者

(3) 日時 がん検診・健康相談・特定健康診査・特定保健指導等、その他随時

(4) 交付状況

健康手帳	がん検診手帳	検診パスポート
3人	713人	1,069人

3 特定健康診査・特定保健指導

(1) 目的

高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、保険者は40歳以上の被保険者および被扶養者に対し、メタボリックシンドロームに着目した健康診査・保健指導を行うことにより、生活習慣病のリスク要因の減少を図り、糖尿病等の有病者、予備群を減少させる。

平成25年3月には、これまでの特定健康診査等の現状と課題、疾病や医療費の動向、住民のニーズ等を踏まえ、平成25年度～平成29年度を計画期間とする「第2期大口町特定健康診査等実施計画」が策定され、それに基づき推進していく。

(2) 対象

大口町国民健康保険被保険者および被扶養者(40歳～74歳)

(3) 実施期間及び実施場所

人間ドック 5月～8月 人間ドック委託医療機関

個別健診 7月～10月 大口町・扶桑町の委託医療機関

集団健診 平成26年1月18日(土) 大口町保健センター

*健診は戸籍保険課にて、保健指導は戸籍保険課と健康生きがい課が連携して実施

(4) 平成25年度特定健診受診者数 (H26.3.5現在 資格喪失による除外者を含む)

受診券発行者数	3,973人
特定健康診査受診者数	1,845人

特定健康診査受診率
46.4%

(5) 平成24年度 特定健診・特定保健指導 法定報告

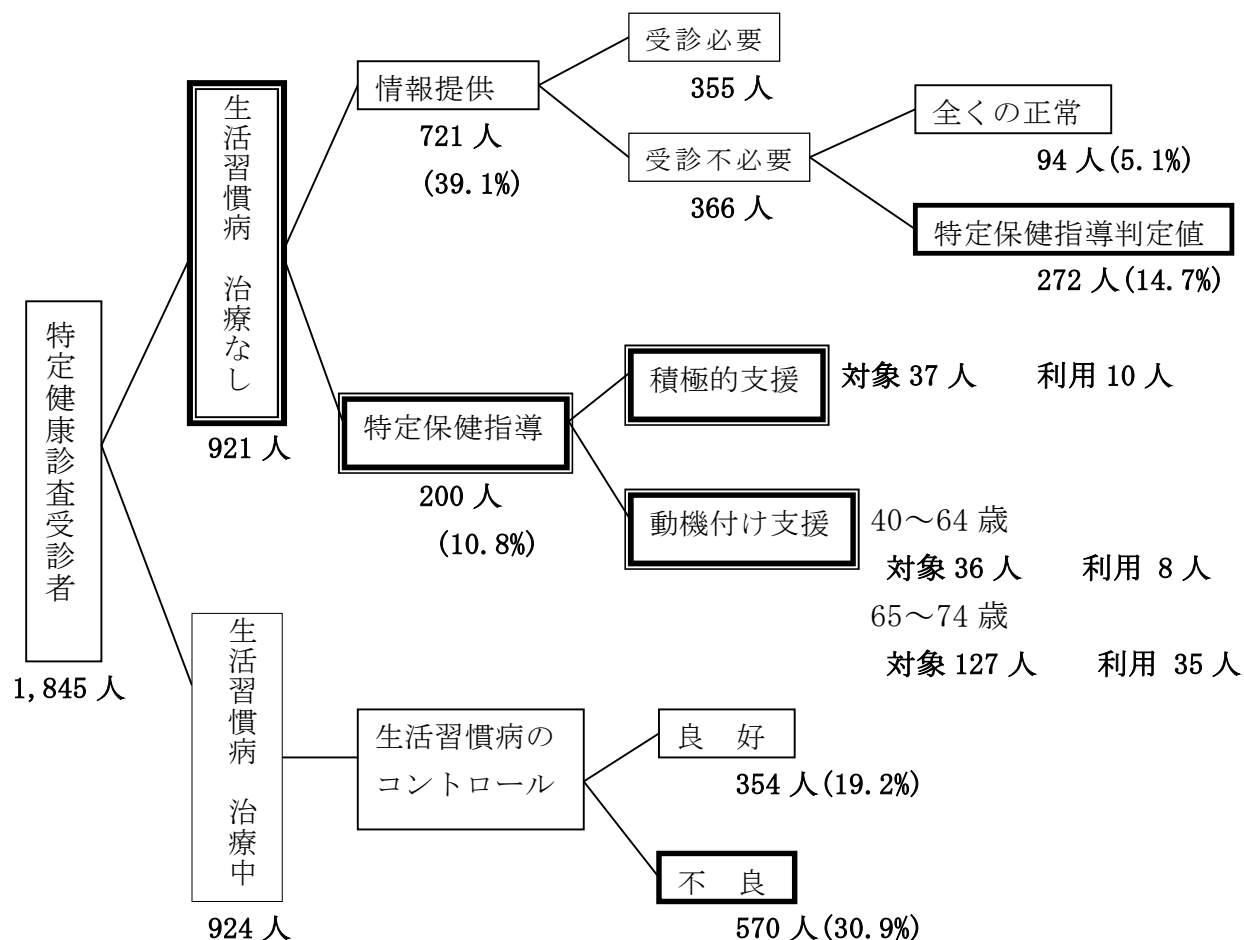
資料：平成24年度 市町村国保特定健診・保健指導実施状況概況報告書より

(単位：%)

	全国	愛知県	大口町
特定健康診査 受診率	33.7	36.6	48.5
特定保健指導 終了率	23.2	16.6	29.0
(積極的支援) 終了率	14.5	9.4	14.7
(動機付け支援) 終了率	26.6	19.1	32.2
内臓脂肪症候群該当者の減少率	—	—	23.8
内臓脂肪症候群該当者	16.6	18.9	18.3
内臓脂肪症候群予備群	10.6	9.9	8.2
高血圧服薬治療中	33.1	35.4	34.9
脂質異常症服薬治療中	21.7	25.5	27.9
糖尿病服薬治療中	6.6	7.8	7.8

(6) 特定保健指導階層化《平成 25 年度健診受診者》

資格喪失による除外者を含む 平成 26 年 3 月現在



(7) 特定保健指導 利用状況《25 年度》(資格喪失による除外者を含む H26.3 現在)

	対象者	利用者	利用率
動機づけ 40～64 歳	36 人	8 人	22.2%
動機づけ 65 歳以上	127 人	35 人	28.3%
積極的	37 人	10 人	27.0%
全体	200 人	54 人	27.0%

利用者 男女別

男性	女性
32 人	21 人
60.4%	39.6%

保健指導利用率
27.0%

平成 25 年度 特定保健指導 実施状況

	初回支援 集団または個別	継続支援 個別(※1)	運動支援 集団	継続支援 個別(※2)	中間評価 個別	継続支援 電話	6ヶ月評価 集団または個別
H24年度5クール	H25年4月実施 集団 2名 個別 5名	H25年4月	H25年5月実施 7名参加 ライフコーダ支援 8名	H25年6月	H25年7月実施 1名	H25年9月	H25年10月実施 集団2名 個別5名
H25年度1クール	H25年9月実施 集団 2名 個別 8名	H25年10月	H25年10月実施 5名参加 ライフコーダ支援 7名	H25年11月	H25年12月実施 1名 動機付支援(電話) 9名	H26年2月	H26年3月実施 個別10名
2クール	H25年11月実施 集団 2名 個別 10名	H25年12月	H25年12月実施 6名 ライフコーダ支援 8名	H26年1月	H26年2月実施 4名 動機付支援(電話) 8名	H26年4月	H26年5月実施
3クール	H26年1月実施 集団 10名 個別 2名	H26年2月	H26年2月実施 10名 ライフコーダ支援 10名	H26年3月	H26年4月実施 1名 動機付支援(電話) 11名	H26年6月 実施予定	H26年7月 実施予定
4クール	H26年2月実施 集団 2名 個別 16名	H26年3月	H26年3月実施 5名 ライフコーダ支援 8名	H26年4月	H26年5月実施 4名 動機付支援(電話) 13名	H26年7月 実施予定	H26年8月 実施予定

※1 初回支援終了後、おおむね2週間後。ライフコーダ(進化型歩数計)の回収と2週間の振り返り、はげまし。

※2 3日間の食事記録による食生活習慣の分析と食事指導。

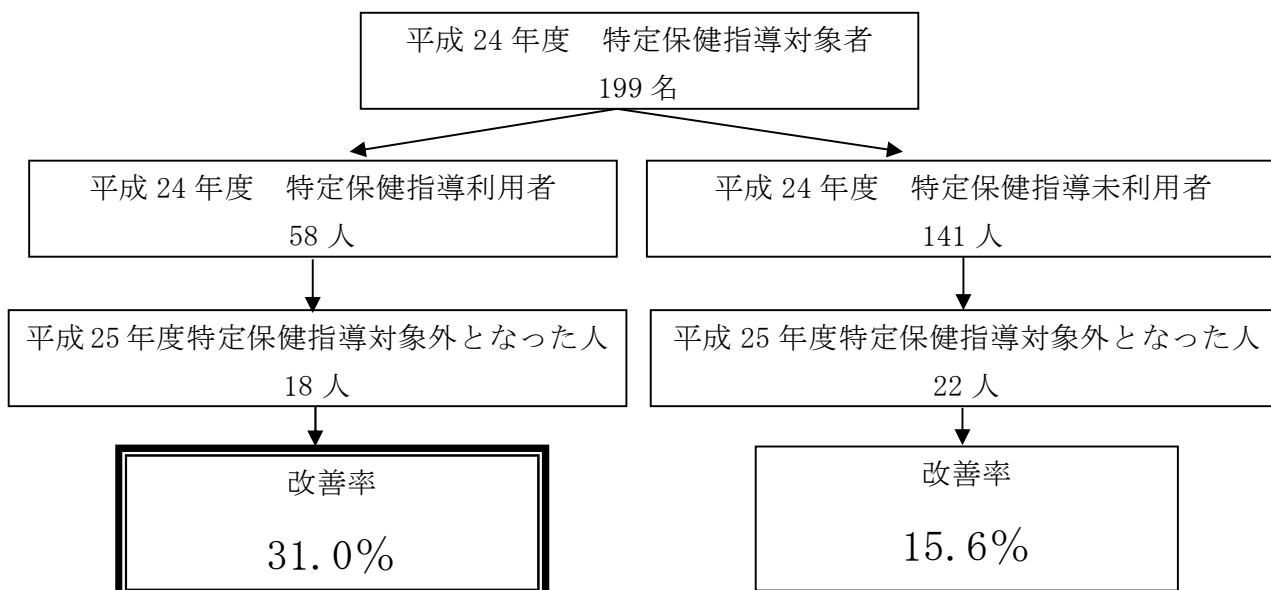
* 江南厚生病院へ特定保健指導委託：7月～3月(人間ドック実施者のみ)

H25年度利用者人数 2名

(8) 平成24年度特定健診を受診した特定保健指導実施者の状況(終了者数)

	終了者		
	男性	女性	合計
動機づけ支援(40歳～64歳)	6人	5人	11人
動機づけ支援(65歳以上)	27人	12人	39人
積極的支援	7人	1人	8人
合計	40人	18人	58人

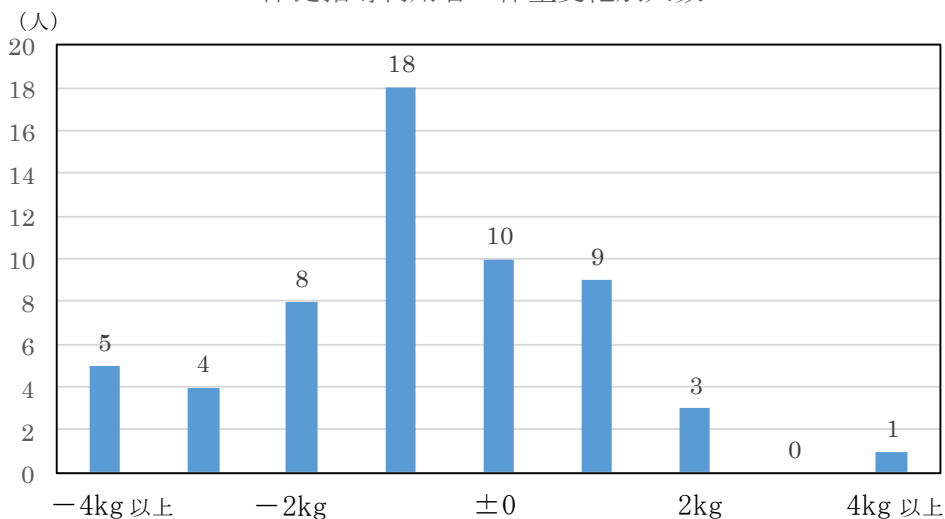
(9) 平成24年度特定保健指導の効果



平成 24 年度保健指導利用者 58 人の変化

	最大	最小	平均
体重の変化	-13.6kg	+3.7kg	-0.91kg
腹囲の変化	-19.3 cm	+7.3 cm	-1.13 cm

保健指導利用者の体重変化別人数



(10) 特定健診後のサポート（重症化予防）

重症化予防の対策として、対象者の家庭を訪問し、生活習慣の改善となる支援を実施した。

○該当者

特定健診の結果、血圧または血糖値が下記の数値以上になっている者

- ・血圧：収縮期血圧 160mmHg 以上または拡張期血圧 100mmHg 以上
- ・血糖：HbA1c 7.0%以上

※訪問対象者の選出

- ①血圧、血糖、脂質のいずれも未治療の者
- ②上記のうち、検査値、年齢、リスクの重なり等を踏まえて優先順位を検討し、優先度の高い対象者から順に訪問

平成 25 年度の実施状況

		血圧	血糖	合計
該当者		98 人	92 人	190 人
内訳	医療管理中	44 人	60 人	104 人
	未受診	54 人	32 人	86 人
訪問件数		9 人	8 人	17 人

訪問実施者の状況	
受診中（服薬）	7 人
経過観察中	4 人
その他	4 人
	（膵臓がん 1）
不明	2 人

4 各種がん検診

(1) 目的

がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけるとともに、がん予防についての知識の普及啓発を行い、健康管理意識の向上を図る。

(2) 実施状況 (町内在住で勤務先等で検診を受ける機会のない者を対象としている)

区分 項目	集団検診 (保健センター)	医 療 機 関
実施回数 実施機関 及び 実施場所	< 胃 > 年3回 (検診車) <子宮頸部> 年4回 (検診車) <乳 MMG> 年4回 (検診車) <乳超音波> 年3回 (検診車) <前立腺> 年2回 <大腸> 結核肺がん検診時とがん検診時に 検体採取容器を配布 <肺> 胸部X線 (結核肺がん検診と兼ねる) 喀痰(結核肺がん検診時に検体採取容器を配布)	平成25年6月1日から、 平成26年2月28日までの町内委託 医療機関の診療時間内 * (平成25年度より) 乳・子宮頸 がん検診委託医療機関を3か所 から4か所に拡大
申込方法	・保健センターへ電話 ・結核肺がん検診会場で受付	各医療機関の窓口にて
自己負担	< 胃 > 1,000円 <子宮頸部> 800円 <乳 MMG> 1,000円 <乳超音波> 700円 <前立腺> 300円 <大腸> 400円 <肺> X線のみ 無料 X線+喀痰 300円	< 胃 > 2,000円 <子宮頸部> 1,000円 <乳 MMG> 1,500円 <大腸> 500円 <肺> X線のみ 500円 X線+喀痰 1,500円

(3) 検診内容及び受診対象年齢

種 類	内 容	受診対象年齢
胃	胃部X線撮影	20歳以上
	胃管内視鏡検査 (医療機関のみ実施)	40歳以上
子宮頸部	視診・細胞診	20歳以上
乳 (個別)	視触診・MMG (X線検査)	40歳以上
	視触診・健康教育 (自己検診法)	
(集団)	MMG (X線検査)	40歳以上
	超音波 (集団のみ)	20~39歳
大腸	便潜血反応試験による2日間採便法	20歳以上
肺	胸部X線撮影・喀痰検査	20歳以上 (集団検診は40歳以上)
前立腺 (集団のみ)	血液検査 (P S A検査)	50歳以上

(4) 年度別実施状況
ア 胃がん

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果					精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	要観察	要精検	判定不能	要治療	異常なし	がん	その他の疾患	未受診・未把握
40歳以上	21	4,719	419	189	230	8.9	303	57	58	1	—	14	0	34	10
	22	4,725	420	199	221	8.9	321	41	58	0	—	15	0	41	2
	23	4,725	453	227	226	8.9	336	61	56	0	—	9	0	45	2
	24	4,725	483	258	225	10.2	357	60	66	0	—	13	1	42	10
	25	4,725	343	202	141	7.3	287	37	19	0	—	2	2	8	7
40歳未満	21	—	16	14	2	—	15	1	0	0	—	0	0	0	0
	22	—	18	12	6	—	15	1	2	0	—	1	0	1	0
	23	—	22	19	3	—	20	2	0	0	—	0	0	0	0
	24	—	31	27	4	—	24	4	3	0	—	0	0	1	2
	25	—	24	20	4	—	22	1	1	0	—	0	0	1	0
40歳以上(内視鏡)	25	4725	212	—	212	4.5	43	133	23	—	12	1	0	22	0
	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	21	—	435	203	232	—	318	58	58	1	—	14	0	34	10
	22	—	438	211	227	—	336	42	60	0	—	16	0	42	2
	23	—	475	246	229	—	356	63	56	0	—	9	0	45	2
	24	—	514	285	229	—	381	64	69	0	—	13	1	43	12
	25	—	579	222	357	—	352	171	44	0	12				

イ 大腸がん

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団	医療機関			異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	がんの疑い	未把握
40歳以上	21	4,719	686	289	397	14.5	641	—	45	12	4	20	1	8
	22	4,725	734	308	426	15.5	694	—	40	16	3	18	0	3
	23	4,725	971	434	537	20.6	901	—	70	21	2	35	0	12
	24	4,725	881	377	504	18.6	812	—	69	15	1	39	0	14
	25	4,725	1026	409	617	21.7	934	—	92	28	3	52	0	9
40歳未満	21	—	12	9	2	—	12	—	0	0	0	0	0	0
	22	—	22	15	7	—	21	—	1	1	0	0	0	0
	23	—	59	57	2	—	58	—	1	1	0	0	0	0
	24	—	29	26	3	—	26	—	3	2	0	0	0	1
	25	—	57	44	13	—	55	—	2	0	0	0	0	0
計	21	—	698	298	400	—	653	0	45	12	4	20	1	8
	22	—	756	323	433	—	715	0	41	17	3	18	0	3
	23	—	1030	491	539	—	959	0	71	22	2	35	0	12
	24	—	910	403	507	—	838	0	72	17	1	39	0	15
	25	—	1083	453	630	—	989	0	94	28	3	52	0	9

ウ 子宮頸がん検診

(単位：人・%)

	年 度	対 象 者	受診者数			受 診 率	結 果			精検結果 (再掲)						
			集 団	医 療 機 関			異 常 な し	そ の 他 の 疾 患	要 精 検	異 常 な し	異 形 成	が ん	が ん 以 外 の 疾 患	保 留	未 把 握	未 受 診
20歳以上	21	4,304	587	276	311	13.6	517	67	3	0	-	0	3	-	0	
	22	4,301	668	313	355	15.5	541	116	12	2	6	0	0	2	2	
	23	4,301	855	316	539	19.9	756	74	25	11	10	0	0	1	3	
	24	4,301	750	277	473	17.4	690	45	15	2	6	1	0	0	6	
	25	4,301	727	267	460	16.9	656	38	29	12	9	1	1	0	6	

*平成23年度から妊婦健診時の子宮頸がん検診を含む。
 *平成23年度、平成24年度ともに20歳未満の妊婦2名含む
 *平成25年度は20歳未満の妊婦4名含む

エ 乳がん検診

(単位：人・%)

	年 度	対 象 者	受診者数			受 診 率	結 果			精検結果 (再掲)				
			集 団	医 療 機 関			異 常 な し	要 観 察	要 精 検	異 常 な し	が ん	が ん 以 外 の 疾 患	未 把 握	未 受 診
40歳以上	21	3,115	506	243	263	16.4	451	0	55	21	0	19	15	
	22	3,112	511	245	264	17.4	448	0	61	29	1	17	14	
	23	3,112	542	266	276	18.1	484	0	58	26	2	13	17	
	24	3,112	563	282	281	18.1	492	0	71	46	2	17	6	
	25	3,112	499	271	228	16.0	426	0	73	40	4	20	9	
30歳～ 39歳	21	—	82	82	0	—	67	3	10	5	0	5	0	
	22	—	68	68	0	—	49	12	7	1	0	3	3	
	23	—	80	80	0	—	61	11	8	6	0	2	0	
	24	—	83	83	0	—	78	0	5	1	0	1	3	
	25	—	98	98	0	—	94	0	4	1	0	1	2	
合計	21	—	511	245	264	—	448	0	61	29	1	17	14	
	22	—	624	348	276	—	551	3	68	31	2	18	17	
	23	—	643	362	281	—	553	11	79	52	2	19	6	
	24	—	646	365	281	—	570	0	76	47	2	18	9	
	25	—	597	369	228	—	520	0	77	41	4	21	11	

オ 乳がん・子宮頸がん検診 クーポン利用者再掲

(単位：人・%)

	年 度	対 象 者	受診者数			受 診 率
			集 団	機 関 医 療		
乳 が ん	22	748	255	66	189	34.1
	23	707	232	74	158	32.8
	24	713	237	84	153	33.2
	25	752	181	63	118	24.1

(単位：人・%)

	年 度	対 象 者	受診者数			受 診 率
			集 団	機 関 医 療		
子 宮 頸 が ん	22	693	210	33	177	30.3
	23	724	217	41	176	30.0
	24	738	200	73	127	27.1
	25	701	152	53	99	21.7

カ 肺がん検診

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数				受診率	結果			精検結果（再掲）						
			集団		医療機関			精検不要	肺がん以外の疾患	要精検 (肺がんの疑い)	異常なし	がん(悪性)	がんの疑い	がん以外の疾患	診断保留・経過観察	未受診・未把握	
			X線及び喀痰	X線のみ	X線及び喀痰	X線のみ											
40歳以上	21	4,719	957	34	536	19	368	20.3	937	14	13	6	1	0	5	-	1
	22	4,725	937	17	515	36	369	19.8	913	16	8	6	1	0	6	5	6
	23	4,725	####	17	528	41	475	22.5	1,039	6	16	5	3	0	2	2	4
	24	4,725	948	17	415	23	493	20.1	929	8	11	6	1	0	8	1	3
	25	4,725	####	18	536	19	544	23.6	1,086	22	9	3	0	1	3	1	1
40歳未満	21	—	8	0	0	2	6	—	8	0	0	0	0	0	0	-	0
	22	—	8	0	0	0	8	—	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	23	—	7	0	0	0	7	—	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	24	—	5	0	0	1	4	—	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	25	—	6	0	0	0	6	—	6	0	0	0	0	0	0	0	0
計	21	—	965	34	536	21	374	—	945	14	13	6	1	0	5	-	1
	22	—	945	17	515	36	377	—	921	16	8	6	1	0	6	5	6
	23	—	####	17	528	41	482	—	1,046	6	16	5	3	0	2	2	4
	24	—	953	17	415	24	497	—	934	8	11	6	1	0	8	1	3
	25	—	####	18	536	19	550	—	1,092	22	9	3	0	1	3	1	1

キ 前立腺がん検診

(単位：人・%)

年度	対象者	受診者(集団)	受診率	結果			精検結果（再掲）					
				異常なし	要再検	要精検	異常なし	が ん	が ん の 疑 い	前 立 腺 肥 大	そ の 他	未 把 握 受 診
21	1,523	80	5.3	72	0	8	4	1	0	1	1	1
22	1,532	152	9.9	143	0	9	3	2	1	0	3	0
23	1,532	130	8.5	120	0	10	2	1	0	3	1	3
24	1,532	154	10.1	145	0	9	4	1	0	2	0	2
25	1,532	155	10.1	149	0	6	0	2	0	1	0	3

※がん予防効果を高めるために、要精検者のうち受診結果が返送されない方について
受診2か月後に医療機関に受診状況を確認。未受診者の方には、受診勧奨を行った。

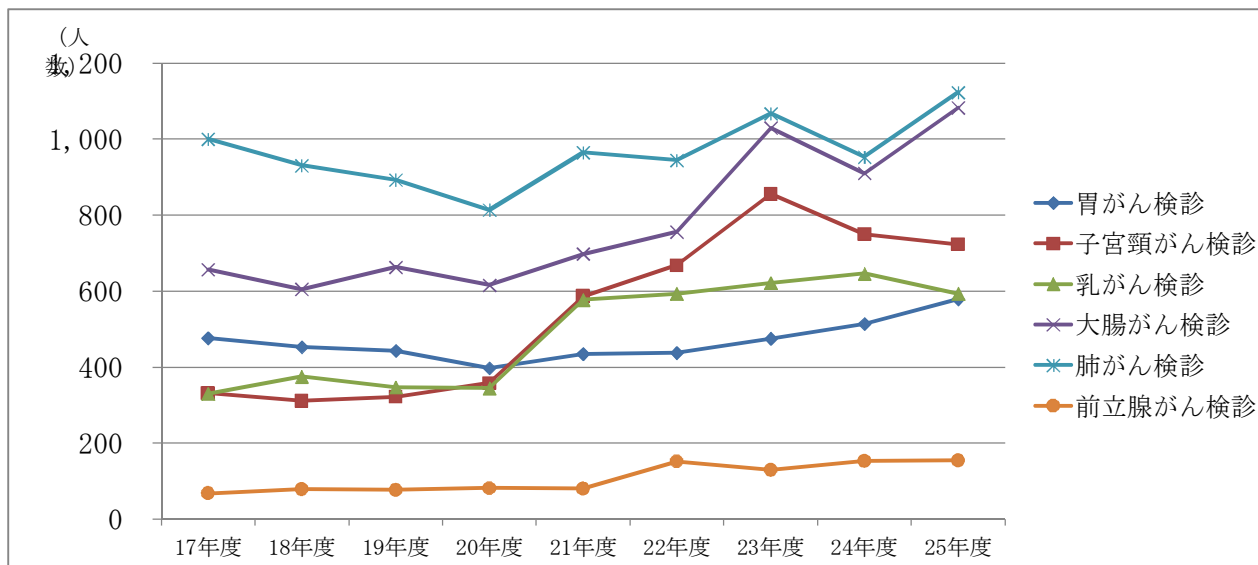
※各検診の受診者中の要精検率と、精検者のうちの精検受診率

	要精検率	精検受診率
胃がん検診	13.4%	84.8%
大腸がん検診	5.4%	78.3%
子宮頸がん検診	1.6%	66.7%
乳がん検診	11.8%	92.5%
肺がん検診	2.0%	84.2%
前立腺がん検診	5.9%	77.8%

(5) がん検診受診者数の推移

(単位：人)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
胃がん検診	476	453	443	398	435	438	475	514	579
子宮頸がん検診	331	312	322	358	587	668	855	750	723
乳がん検診	330	375	347	345	577	593	622	646	593
大腸がん検診	657	605	663	616	698	756	1,030	910	1,083
肺がん検診	1,000	931	893	814	965	945	1,068	953	1,123
前立腺がん検診	68	79	77	82	80	152	130	154	155
合計	2,862	2,755	2,745	2,613	3,342	3,552	4,180	3,927	4,256



- 【平成17年度】 各種がん検診自己負担徴収 医療機関での乳がん検診 (MMG)開始
- 【平成18年度】 住民結核検診対象者が40歳以上になる
- 【平成19年度】 乳がん検診を集団にて、30～39歳超音波・視触診を開始
(乳がん検診医療機関での視触診のみを廃止)
- 【平成20年度】 特定健診開始
- 【平成21年度】 女性特有のがん検診事業開始 (H22.9月～23.3月末)
子宮頸がん・乳がん検診の委託医療機関を拡大 (犬山中央病院 江南厚生病院を加える)
国保人間ドックのオプションとして町の女性のがん検診を組み入れる
- 【平成22年度】 女性特有のがん検診事業 (H22.5月～23.3月末) *対象者は先行予約受付をする
成人の日にごがん検診啓発チラシを同封
健康まつりにてがんの啓発
女性特有のがん検診未受診者通知 (1月)
- 【平成23年度】 集団大腸がん検診の申し込みを胃がん・子宮頸がん・乳がん検診時に実施 (年9回)
健康推進員活動にごがんの予防・啓発を実施
妊婦健診の子宮がん検診をごがん検診として計上
- 【平成24年度】 新規受診者を増やすため3年間がん検診を受けたことのない人に葉書による受診勧奨を実施
幼稚園・保育園の保護者全員に女性のがん検診チラシの配布
女性特有のがん検診未受診通知 (9月・1月)
受診しやすい体制整備として複数のがん検診の同日開催を実施
- 【平成25年度】 新規事業として、胃がん検診の内視鏡検査を実施
がん検診周知の街頭活動を実施 (アピタ大口店)
検診記録の管理と自己管理の意識づけのための検診パスポートを作成、配布

5 結核検診

(1) 目的

感染症法に基づき、定期的に結核健康診断を実施することにより、結核の早期発見・早期治療につなげることを目的とする。

また、疾病予防・健康づくりに関する知識の普及・啓発を行う。

(2) 対象

40歳以上の町民で会社・学校等で検診を受ける機会のない者

(3) 実施日

平成25年5月30日(木)・31日(金)、6月3日(月)・4日(火)の4日間

(4) 内容

胸部レントゲン検査(間接撮影)(肺がん検診を兼ねる)

(5) 実施状況

ア 年度別年齢別受診者状況

(単位：人)

年度 \ 年齢	受診者数	40～49	50～59	60～69	70以上
21	570	35	55	270	210
22	532	34	37	232	229
23	545	41	36	236	232
24	432	34	29	148	221
25	554	32	28	168	326

イ 検査結果

(単位：人)

結 果		精検結果(再掲)					
精検不要	要精検		異常なし	肺がんの疑い	がん以外の疾患	診断保留・経過観察	未受診・未把握
	肺結核の疑い	肺結核以外の疾患					
534	0	20	5	1	6	5	3

6 わかば健康診査

(1) 目的

20・30歳代の若い年代で健診を受ける機会のない者を対象とし、生活習慣病の早期発見および生活習慣の改善に向けた指導を行い、予防意識の向上を図る。健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進を図る。

(2) 対象 20・30歳代の町民で健診を受ける機会のない者

(3) 日時 平成26年1月18日(土) 午前9時～11時30分

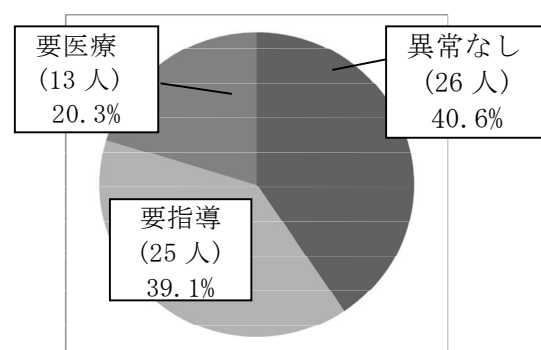
(4) 内容 身長・体重・腹囲測定、血圧測定、尿検査、血液検査(脂質・貧血・肝機能・糖代謝・腎機能検査)、医師による診察 保健師の話(健診結果の活かし方について)

(5) 実施結果

ア 年齢別受診者数 (単位：人)

年度	男		女		合計
	20歳代	30歳代	20歳代	30歳代	
21	1	4	19	88	112
22	1	3	16	79	99
23	0	2	6	31	39
24	0	0	7	39	46
25	0	5	6	53	64

イ 総合判定



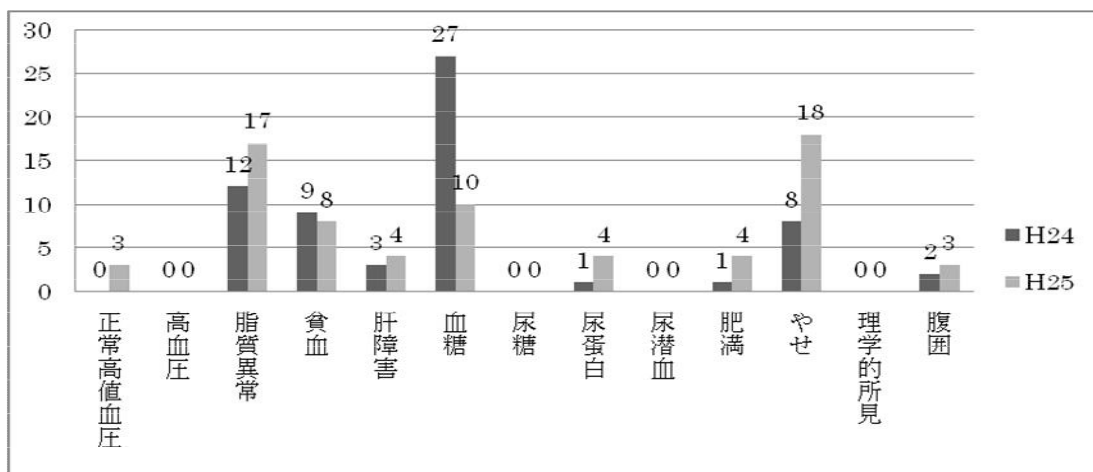
ウ 要指導・要医療の疾病分類 (延べ数)

(単位：人)

年度	正常高値血圧	高血圧	脂質異常	貧血	肝障害	血糖	尿糖	尿蛋白	尿潜血	肥満	やせ	理学的所見	腹囲
21	5	4	25	32	6	27	0	3	9	3	27	0	4
22	7	0	26	22	8	22	1	1	3	5	17	10	2
23	1	0	9	1	1	15	0	2	0	1	6	1	2
24	0	0	12	9	3	27	0	1	0	1	8	0	2
25	0	3	17	8	4	10	0	4	0	4	18	0	3

※平成25年度はその他として、クレアチニン7人、尿素窒素1人、尿酸1人。

エ 平成25年度 疾患別 要指導・要医療判定分類 (延べ人数)



7 肝炎ウイルス検診

(1) 目的

健康増進法に基づき、肝炎対策の推進の観点から住民が自身の肝炎ウイルス感染の状況を認識し、必要に応じて保健指導等を受け、医療機関を受診することにより肝炎による健康障害を回避し、症状を軽減し進行を遅延させることを目的とする。

(2) 対象

満 40 歳の者（年度末年齢）

満 41 歳以上で過去に当該肝炎ウイルス検診に相当する検診を受けたことがなく、検診を希望する者

(3) 実施場所

大口町・扶桑町の委託医療機関

(4) 実施期間

平成 25 年 7 月 1 日～10 月 31 日

ただし、大口町の胃がん検診（胃内視鏡検査）を受ける場合は、大口町の医療機関に限りがん検診実施期間中も可能とする。

(5) 内容

問診、C型肝炎ウイルス検査、HBs抗原検査

(6) 実施状況

区分 \ 項目	受診者	HBs抗原検査		C型肝炎ウイルス検査	
		陰性	陽性	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染していない可能性が極めて高い	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染している可能性が極めて高い
40 歳	30	30	0	30	0
その他の年齢	132	131	1	132	0
計	162	161	1	162	0

8 骨密度測定

(1) 目的

骨粗しょう症は寝たきりの原因となる骨折の基礎疾患となるため、早期に骨量の減少者を発見し骨粗しょう症を予防する。また、「健康おおぐち21（生活習慣病予防分野）」の推進の一つとして、節目となる年齢を機会に自分の骨密度を知ることによって健康意識の高揚を促し、骨量を増やす生活習慣を啓発し実践へと結びつける。

(2) 対象

20歳以上の町民

(3) 周知方法

広報おおぐち、広報無線、各事業時にチラシによる啓発

(4) 日時

平成25年6月21日（金）・平成25年10月17日（木） 午前9時30分～午後3時30分

(5) 内容

踵骨での超音波伝導法による骨密度測定

愛知県健康づくり振興事業団派遣スタッフによる結果説明

検査結果が要指導または要精検の初回受診者には保健師、管理栄養士による個別指導を実施

(6) 実施結果

	受診者	異常なし	要観察	要指導	要精検
39歳以下	24	18	5	1	0
40歳代	24	18	3	3	0
50歳代	31	20	1	10	0
60歳代	58	32	0	21	5
70歳以上	72	40	0	23	9
合計	209	128	9	58	14

骨密度は女性ホルモンエストロゲンに左右され、更年期以降の異常は増えている。妊娠出産の影響は証明されていないが遺伝要素もあるといわれる。39歳以下でも骨密度の低い者の割合が高い。チラシを用いて機会をとらえた啓発をしていく。

9 健康教育

健康教育は、住民の健康意識を高め、より良い生活習慣の定義を図ることにより、健康増進・疾病予防・寝たきり予防などに役立てることを目的としている。

健康おおぐち 21 計画の推進をベースに、健康づくりをしやすいまちづくりを目指すとともに健康おおぐち 21 計画の目標に沿った具体的な取り組みを推進した。

生活習慣病予防については健康推進員地区活動時や各団体からの要請時のテーマとして取り上げ、血圧・脂質・歯周病等についてさまざまな場で周知・啓発を行い、生活習慣の見直し・改善の機会となるよう事業展開を行った。また、高齢者については、お口の健康についての啓発を中心に行った。

(1) ポールウォーキング教室

(国保連合会健康体操普及事業により戸籍保険課と共同で実施)

ア 目的

「短時間で効果的なウォーキング方法」として、ポールウォーキングを町民の健康づくりや疾病予防に役立てることを目的とする。

イ 対象

町民

ウ 実施期間及び場所 平成 25 年 4 月 26 日 (金) ~ 7 月 26 日 (金) (全 12 回)

健康文化センター1階 多目的室

エ 従事者 講師(健康運動指導士)・保健師

※健康ワンポイントアドバイスは保健師・管理栄養士・歯科衛生士が実施

オ 内容 ポールウォーキング講義と実技(歩行測定、ポールエクササイズ)
健康ワンポイントアドバイス(12回中10回:実技開始前の10分間)

(単位:人)

実施月日	健康ワンポイントアドバイスの内容	参加人数
5月10日	血管を守ろう	26
5月17日	がん検診のお知らせ	23
5月24日	血管を守ろう(食生活)	25
5月31日	大口町の介護予防事業のお知らせ	24
6月7日	歯周病予防 歯の健康センターのお知らせ	21
6月14日	血管を守ろう!No3	21
6月28日	特定健診のお知らせ	21
7月5日	熱中症について	22
7月12日	夏バテ予防	21
7月19日	血管を守ろう!No3	23
合計 10回		227

※参加者及びサポーターを参加人数とした。

カ 参加状況
実人数 25 人（延べ参加者数：229 人）

(2) 小学校区ポールウォーキング教室

ア 目的

「より短時間で効果的なウォーキング方法」として、ポールウォーキングをより身近な場所として小学校区で実施する。

イ 対象

町民

ウ 実施期間及び場所

南小学校区：平成 25 年 4 月 2 日～6 月 18 日（全 6 回） 秋田学共

西小学校区：平成 25 年 11 月 9 日～平成 26 年 1 月 21 日（全 5 回）余野学共

エ 従事者 講師（健康運動指導士）・保健師・ポールウォーキングリーダー

オ 内容 ポールウォーキング講義と実技（歩行練習、ポールエクササイズ）

カ 参加状況

南小学校区 実人員 20 人（述べ参加者数：99 人）

西小学校区 実人員 62 人（述べ参加者数：204 人）

(3) ポールウォーキングリーダー養成講座

ア 目的

一人一人が健康で活力ある地域づくり、町づくりをめざして、町民の方々へのさらなる普及を図るため、リーダーを養成する。

イ 対象

ポールウォーキングを習得した町民

ウ 実施期間及び場所

平成 25 年 8 月 29 日～9 月 12 日（全 3 回）健康文化センター 多目的室

エ 従事者 講師（健康運動指導士）・管理栄養士・保健師

オ 内容

第 1 回 講義「ポールウォーキングリーダーの役割について」

第 2 回 講義「参加者へのポールウォーキングの方法を伝えるポイントについて」

実技「ポールの長さ調整の仕方について伝える」

第 3 回 講義「講座の内容の組み立て方について」

実技「ポールエクササイズの講義、スクワットを指導する」

「ポールウォーキングの特徴とメリットを説明する」

カ 参加状況

実人員 20 人（述べ参加者数：58 人）

(4) わかば健康診査 結果説明会

ア 目 的

わかば健康診査を実施後、生活習慣の改善が必要または医療機関受診が必要と判定された人に生活習慣の改善に向けた指導を行い、生活習慣の見直しと健康の維持増進の意識を高めることを目的とする。

イ 対 象 平成 25 年度わかば健診受診者 64 人

ウ 日 時 平成 26 年 2 月 21 日 (金) 午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
平成 26 年 2 月 24 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

エ 参 加 者 8 人

オ 実施内容 結果の見方・運動の話・筋力アップ体操の実施・栄養の話

カ 従 事 者 健康運動指導士 保健師 管理栄養士

キ ま と め 血液検査結果を自分自身でレーダーチャートに落とし、生活習慣アンケート等を実施し、運動や食生活などの生活習慣を振り返ることで自分の改善するポイントをそれぞれが見出し、今日から始める運動や食生活の目標を決めることができた。

(5) 健康教育のまとめ

(単位：回・人)

区分 事業	事業名	対象	実施回 数	参加延人数
年 間 計 画 に よ る 事 業	健康推進員研修会	健康推進員	7	304
	健康推進員代表者会	代表健康推進員	9	99
	ウォーキング大会	町民	1	450
	わかば健診時健康教育	わかば健診受診者	1	64
	歩く健康のつどい	町民	22	302
	健康まつり	町民	1	1,200
	ポールウォーキング教室	町民	10	227
	ポールウォーキング自主活動	町民	50	794
	元気づくりサポーター養成講座	町民	1	23
	健康おおぐち 2 1 計画専門委員会	町民代表・職員	2	35
	健康おおぐち 2 1 計画ヒアリング	町民代表・職員	7	72
	職員部会	職員	2	24
	保育士研修会	職員	1	10
	体力測定 (ほほえみまつり・健康まつり)	町民	2	270
	体力測定 (小学校区)	町民	3	94
		合 計		119

区分 事業	事業名	対象	実施回数	参加延人数
要 請 に よ る 事 業	健康推進員活動（各地区）	区民（中小口、上小口、大屋敷、余野、さつきヶ丘）	5	126
	ハッピースマッピィー健康教室	健康クラブ笑顔 21 及び町民	2	49
	さくら大学	会員	1	40
	老人クラブ女性部	会員	2	96
	秋田区 老人クラブ	会員	2	105
	大屋敷区 高齢者ふれあいの会	会員	1	70
	豊田区 老人クラブ	会員	1	32
	下小口区 老人クラブ	会員	1	127
	外坪区 老人クラブ	会員	1	46
	ひだまりの会	会員	1	12
	食育講演会	保育園児の親	4	195
	保育園調理員研修	調理員	1	13
	適応指導教室実習	生徒	1	8
	北小学校 学校保健委員会	生徒の親等	1	20
	ポールウォーキングひろめ隊	会員	1	13
	大口町ボランティア連絡協議会	会員	1	23
	株式会社いずみ 社員研修	社員等	1	100
	一期一会荘 社員研修	社員等	1	14
	商工会	会員等	2	220
	いきいき教室	会員	6	94
	合 計		36	1,403
健 康 教 育 合 計			155	5,371

10 健康相談

健康相談事業は、住民が抱えている健康問題に対して生活習慣改善を中心に実施し、より住民の健康的な生活を支援できるよう努めている。

(1) 健康相談

ア 目的

健康相談（電話・面接）を通して日常生活の不安や悩みを話し、生活を見直すことで健康の保持増進につなげる。

イ 対象

町民

ウ 従事者

保健師 看護師 管理栄養士 歯科衛生士

エ 実施状況

毎月第2・4金曜日（実施回数 24回）・随時

(ア) 電話相談

主な内訳	件数
母子保健	249件
生活習慣病	68件
栄養	36件
精神	20件
その他	65件

(イ) 面接相談

主な内訳	件数
母子保健	128件
生活習慣病	20件
栄養	50件
精神	9件
その他	8件

(2) 健康教育時健康相談

教室名	実施回数	延べ人数
ひだまりの会（中小口）ボランティアを含む	23回	258人
しなやかお達者の会（余野）	24回	281人
しなやかお達者の会（豊田）ボランティアを含む	24回	249人
ポールウォーキング教室	12回	229人
小学校区ポールウォーキング教室	11回	304人
ポールウォーキングリーダー養成講座	3回	58人
商工会	2回	220人
体力測定（ほほえみまつり・健康まつり）	2回	270人
体力測定（小学校区）	3回	94人
体力測定（毎月第3水曜日）	5回	25人
合計	109回	1,988人

11 介護予防事業

要介護の発生の予防または要介護状態になるのを遅らせるために効果のある教室を実施する。

(1) ひだまりの会（中小口）・しなやかお達者の会（余野・豊田）

ア 目的

教室に参加することにより、筋力低下や転倒を防ぎ、身体機能全般の維持・向上を図る。また、参加者同士の交流等により心身の活性化を図る。

介護予防地域支援事業の一般高齢者施策として実施。

イ 対象者

高齢者

ウ 日時及び場所

毎月 第2・4金曜日 午前9時30分～12時 中小口地区コミュニティーセンター

毎月 第2・4火曜日 午前9時30分～12時 余野学習等共同利用施設

毎月 第1・3火曜日 午前9時30分～12時 豊田学習等共同利用施設

エ 従事者

余野：健康運動指導士(年2回)・保健師・ボランティア・町職員

中小口：健康運動指導士(年2回)・保健師・ボランティア・町職員

豊田：健康運動指導士(年2回)・看護師・ボランティア・町職員

*豊田はハートフル大口・看護師に委託

オ 実施状況

地区	回数	参加実人数		参加延人数	平均参加者数
		対象者 (再掲 新規参加者)	ボランティア		
余野	24回	23人 (6人)	2人	281人	11.7人
豊田	24回	13人 (0人)	4人	249人	10.4人
中小口	23回	16人 (2人)	6人	258人	11.2人

余野：筋トレ中心に頭の体操やレクリエーションも加え、実施している。

豊田：平成20年から健康推進員活動の一環として推進員が参加している。

中小口：一年間の計画を立て、ボランティア中心に実施している。七夕飾り、しめ縄作りなどの季節の行事やレクリエーションを交え、仲間同士楽しく交流している。

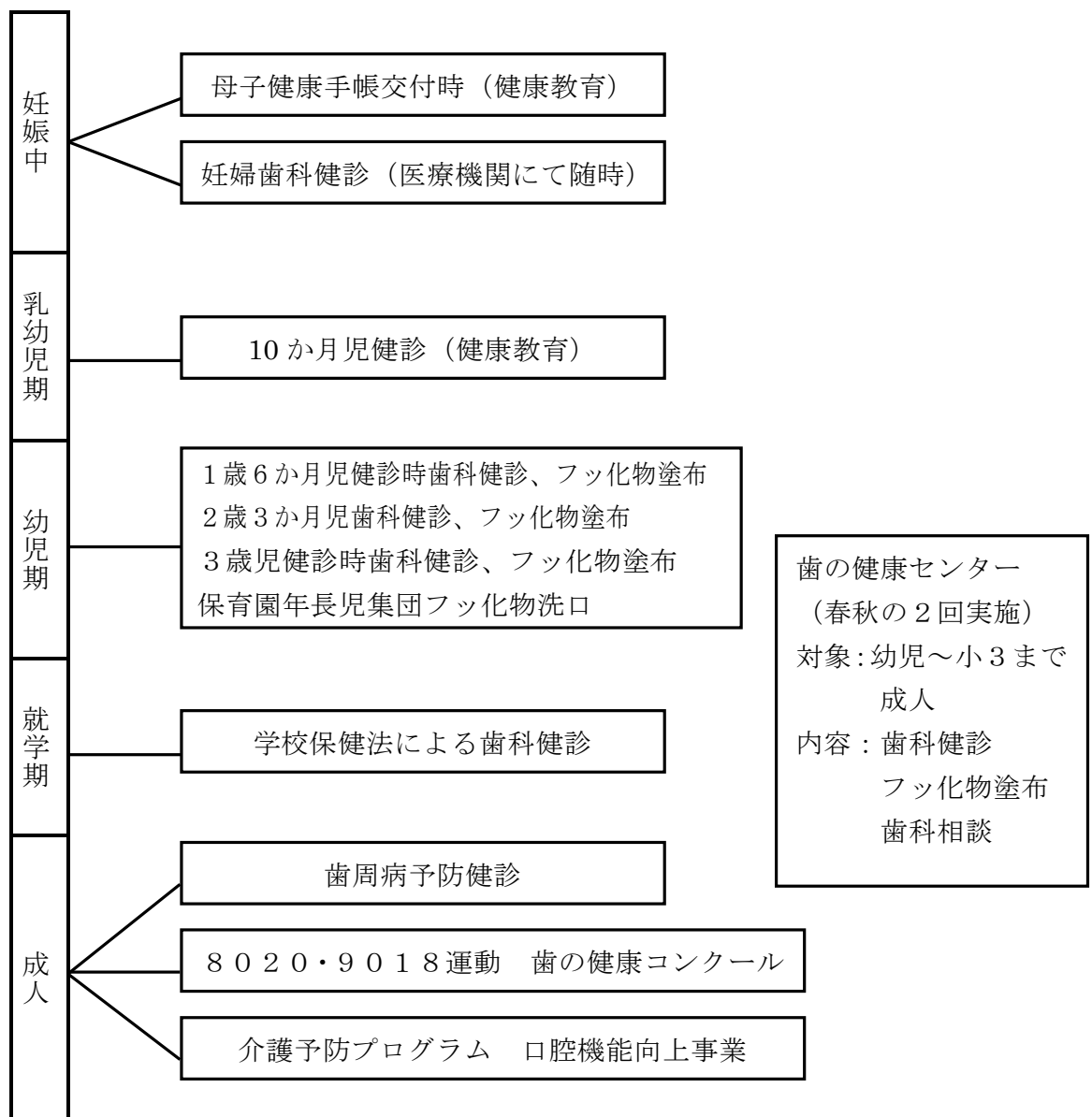
4 齒科保健活動

1 歯科保健事業の取り組み

食事を十分に咀嚼し健康で豊かな生活を維持するには、妊娠期からの歯科保健への取り組みが重要である。

健康おおぐち 21 の歯の目標である「いつまでも自分の歯で食べよう」「いつまでも明るく歯を出して笑おう」に向け、健康と歯のつながりを意識した取り組みを継続している。また、高齢者への健康教育を充実させ、住民の方と一緒に歯周病予防と介護予防の啓発をした。

歯科保健管理体系



* 必要、要望に応じ随時健康教育実施

2 幼児期歯科健康診査

(1) 目的

歯牙が形成される乳幼児期に、歯の大切さと正しい衛生習慣を身につけるとともに、
歯科健診・フッ化物塗布を行い、むし歯予防に努める。

(2) 内容

歯科健診、フッ化物塗布、個別指導 *2歳3か月児歯科健診では染め出し、健康
教育（ブラッシング法、むし歯予防の話）も実施。

(3) 結果

ア 1歳6か月児健診時歯科健診

(単位：人・％・本)

種別 年度	対象者数	受診児数	受診結果					むし歯罹患状況			フッ化物塗布者数	その他の要指導	
			O1	O2	A	B	C	むし歯有病者数(率)	むし歯本数			歯列咬合	その他
									総数	一人あたり			
21	246	241	74	164	2	1	0	3(1.2)	14	0.06	237	28	53
22	244	238	81	153	3	1	1	5(2.1)	12	0.05	231	17	59
23	208	203	68	131	4	0	0	4(1.9)	8	0.04	198	17	63
24	248	242	88	153	1	0	0	1(0.4)	4	0.02	233	21	42
25	202	194	61	131	1	1	0	2(1.0)	10	0.05	185	25	22

イ 2歳3か月児歯科健診

(単位：人・％・本)

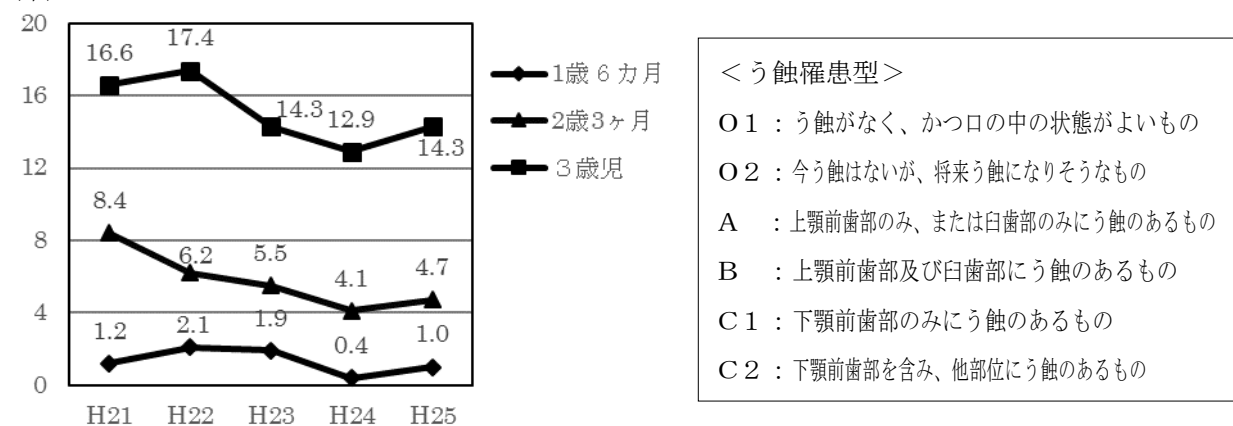
種別 年度	対象者数	受診児数	受診結果					むし歯罹患状況			フッ化物塗布者数	その他の要指導			
			O1	O2	A	B	C	むし歯有病者数(率)	むし歯本数			指しゃぶり	歯列咬合	その他	
									総数	一人あたり					処置歯数
21	253	238	31	187	18	2	0	20(8.4)	48	0.2	2	233	8	28	38
22	248	226	43	168	13	0	1	14(6.2)	31	0.1	1	222	10	21	54
23	219	199	57	131	8	2	1	11(5.5)	25	0.1	14	195	32	32	40
24	231	216	57	150	8	1	0	9(4.1)	32	0.1	1	208	40	21	38
25	231	211	51	150	9	1	0	10(4.7)	25	0.1	0	200	37	28	39

ウ 3歳児健診時歯科健診

(単位：人・％・本)

種別 年度	対象者数	受診児数	受診結果					むし歯罹患状況			フッ化物塗布者数	その他の要指導			
			O	A	B	C1	C2	むし歯有病者数(率)	むし歯本数			指しゃぶり	歯列咬合	その他	
									総数	一人あたり					処置歯数
21	265	260	217	27	11	0	5	43(16.6)	151	0.6	13	250	16	37	55
22	232	218	180	31	2	0	0	38(17.4)	104	0.5	2	211	8	25	50
23	248	251	215	27	7	1	1	36(14.3)	100	0.4	12	240	33	38	13
24	213	208	181	17	10	0	0	27(12.9)	95	0.5	7	202	6	27	34
25	239	237	203	27	7	0	0	34(14.3)	104	0.4	4	220	8	36	38

エ 健診別むし歯保有率の推移



＜う蝕罹患型＞

- 1：う蝕がなく、かつ口の中の状態がよいもの
- 2：今う蝕はないが、将来う蝕になりそうなもの
- A：上顎前歯部のみ、または臼歯部にう蝕のあるもの
- B：上顎前歯部及び臼歯部にう蝕のあるもの
- C1：下顎前歯部にう蝕のあるもの
- C2：下顎前歯部を含み、他部位にう蝕のあるもの

3 フッ化物洗口説明会

(1) 目的

保育園では年長児にフッ化物洗口を実施している。健康生きがい課ではその前学年である年中児とその保護者を対象に、永久歯が生え始める時期にむし歯予防としてフッ化物洗口を実施する意義を伝え、保育園と親と子で永久歯のむし歯予防に努められるよう健康教育の場とする。

(2) 内容

実施期間	平成 26 年 1 月～2 月
実施場所	町内保育園(南、西、中、北)
対象者・参加者	年中児の保護者 143 名(南 28 名 西 48 名 中 41 名 北 26 名)
内容	保護者：フッ化物洗口説明(フッ化物洗口見学・体験・講話) 年中児：むし歯予防の話、ブラッシング指導(染め出し実施)
従事者	園長・保育士・歯科医師・歯科衛生士

4 歯の健康センター

(1) 目的 歯科保健に対する意識の向上と低年齢児のむし歯予防、ならびに成人のむし歯・歯周病による歯の喪失の予防に努める。

(2) 対象 就学前の幼児～小学 3 年生までの児童と成人(成人は定員 25 名)

(3) 日時 平成 25 年 6 月 16 日(日) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
平成 25 年 11 月 17 日(日) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分

(4) 内容 歯科健診 フッ化物塗布 一般歯科相談 歯科健康教育

(5) 受診状況 (単位：回・人)

実施年度	実施回数	受診者総数	受診者内訳	
			幼児	成人
23	2	279	236	43
24	2	220	179	41
25	2	205	163	42

5 妊婦歯科健康診査

(1) 目的

妊娠中は生活の変化やホルモンの影響などでむし歯や歯周病が起きやすくなるため、妊婦のむし歯や歯周病の予防と早期発見に努める。

また、乳歯の質を決める妊娠期に歯科健診を受けることで、生まれてくる子どものむし歯予防の啓発とする。

(2) 受診者の状況

ア 受診者数 (単位：人)

年 度	21	22	23	24	25
初産婦	45	48	43	50	43
経産婦	30	44	42	34	30
計	75	92	85	84	73

イ 健診結果 (単位：人・本)

区分 年度	受診 者数	むし歯の ある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯数	平均 現在歯数	平均 健全歯数
25	73	32	15	7.5	28.4	19.5

歯周コード判定基準

ウ 歯周コード (単位：人)

0	1	2	3以上
7	10	41	15

0：健全な歯肉の状態
1：歯肉から出血する状態
2：歯石沈着あり
3：歯周ポケット4ミリ以上6ミリ未満
4：歯周ポケット6ミリ以上

※歯周コード3以上を歯周疾患と判定する。

エ 判定結果 (単位：人)

異常なし	要指導	要精検	未記入
11	14	47	1

6 歯周病予防健診

(1) 目的

成人歯科保健に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防に努める。
歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身につける。

(2) 対象

平成26年3月31日までに満40・45・50・55・60・65・70・75歳の節目になる者及び特定保健指導対象者

(3) 実施期間・場所

平成25年4月1日～平成26年3月31日 町内歯科医療機関

(4) 実施内容

口腔内及びその周辺診査・保健指導

(5) 受診状況

(単位：人)

区分 年度	受診者数			年齢別			
	総数	男	女	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
23	61	13	48	30	22	7	2
24	82	28	54	34	23	13	12
25	100	26	74	33	22	26	19

*平成24年度より対象者に個別通知

(6) 診査結果

ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯本数	欠損補綴歯本数	平均健全歯数
100	49	39	11.4	77	12.6

*欠損補綴歯…失われた歯を人工歯で補ったもの

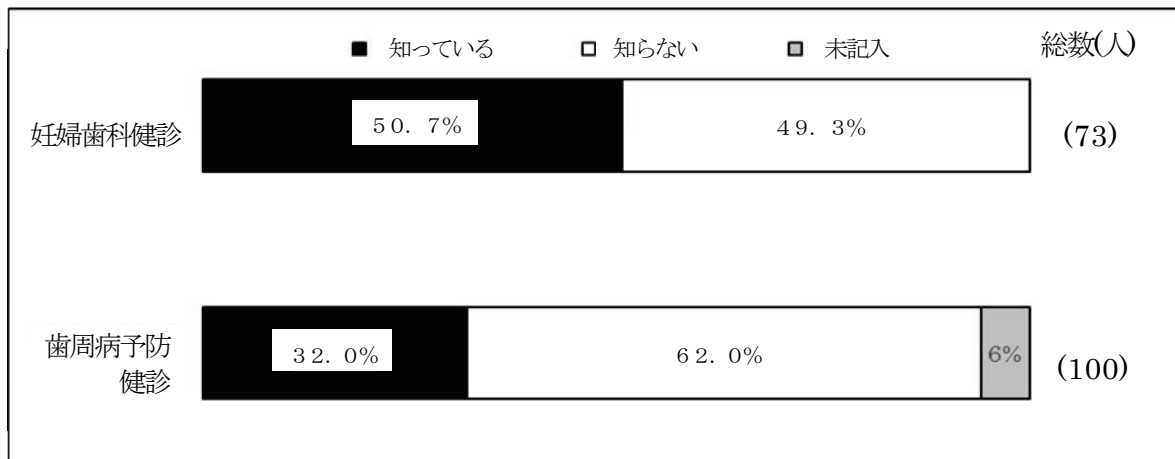
イ 総合判定

(単位：人)

受診者数	異常なし	要指導	要精検	未記入
100	8	13	74	5

(7) アンケート結果

喫煙と歯周病の関係認知度



(8) 歯の健康づくり得点

妊婦歯科健診、歯周病予防健診、特定保健指導、フッ化物洗口説明会、健康まつり、健康教育時に実施。歯の健康づくり得点は口の中を見なくても口の健康状態を把握できるものである。大口町民の歯の健康状態の傾向を把握し、健康教育に役立て、歯の健康増進につなげていくことを目的としている。

チェック項目により点数が決められており、合計得点が16点以上の者は歯の健康にとって良い生活習慣を持ち、歯の状態にも問題がないと判断している。

ア 実施人数

(単位：人)

	男	女	妊婦	計
40歳未満	8	122	70	200
40歳以上	61	216	3	280
合計	69	338	73	480

イ 歯の健康づくり得点で16点以上の者

(単位：人)

	男	女	妊婦	計
40歳未満	2	29	9	40
40歳以上	33	96	1	130
計	35	125	10	170

16点以上の割合 35.4%

7 はちまるにいまる きゅうまるいちはおち 8020・9018運動 歯の健康コンクール

(1) 目的

生涯を通じた歯の健康づくりの一環として、80歳以上で20本以上、90歳以上で18本以上の歯がある方を表彰し、歯科保健への認識を高める。

(2) 表彰日時

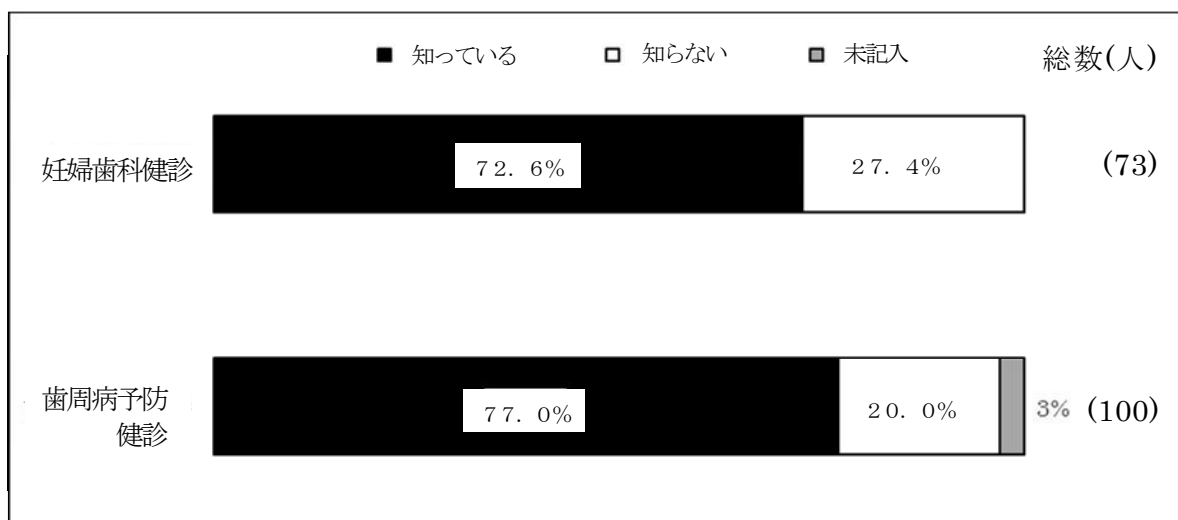
平成25年11月17日(日)

(3) 表彰者

13人 内訳：8020表彰12人(男7人、女5人) 9018表彰1人(女1人)

(4) 8020運動の認知度

ア 実施結果



8 口腔機能向上事業

(1) 目的

口腔機能が低下しているおそれがあり要介護認定を受けていない高齢者を対象として、口腔機能の維持・向上を通じて要介護状態に陥らないよう支援する。

(2) 内容

事業名	口腔機能向上教室（おいしく食べられる健口教室）
対象者	元気アップ高齢者
実施時期	平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
実施回数	1 クール 6 回（月 1 回）
実施場所	大口ケアセンター あかり
従事者	歯科衛生士
参加人数	16 名(延べ人数 86 名)
募集方法	生活機能チェックリストを送付し、口腔機能の項目に該当した方を地域包括支援センターから勧誘
実施内容	1 回目 事前アセスメント 2 回目 染め出しによる口腔清掃指導、歯っぴー体操、唾液腺マッサージ 3 回目 講話（歯周病とむし歯、唾液、飲み込み、口腔機能）、歯っぴー体操、唾液腺マッサージ 4 回目 お口周りの筋力アップゲーム、歯っぴー体操、唾液腺マッサージ 5 回目 脳トレーニングとお口の体操、歯っぴー体操、唾液腺マッサージ 6 回目 事後アセスメント

(3) まとめ

前年度に引き続き、会場を大口ケアセンターあかりとし、参加者の送迎を同事業所に委託した。参加者から「送迎があるため気軽に教室に参加できた。」との声も聞かれた。

教室では、ゲームなどで楽しくお口周りの筋力アップに取り組むことができた。ほとんどの参加者が事前アセスメントよりも結果が向上した。

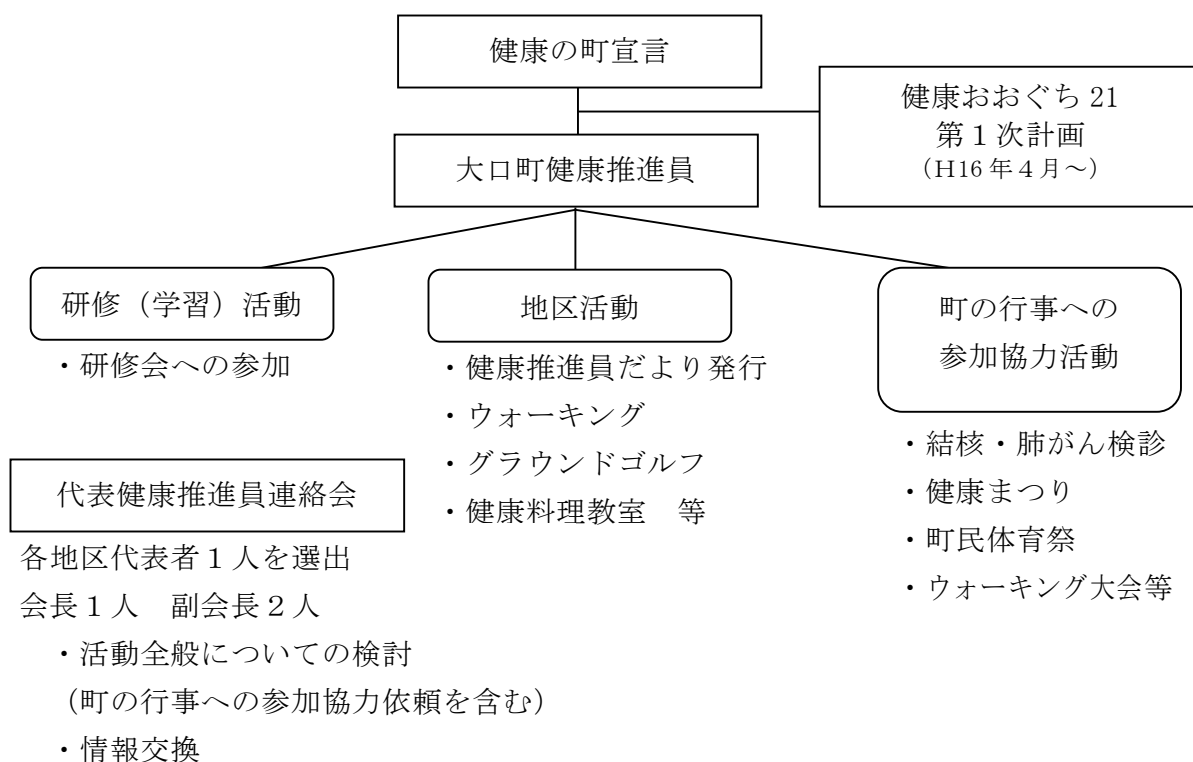
5 健康推進事業

1 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

今年度は大口町健康推進員設置要綱の改正を行い、任期を3年から2年に変更した。また、行政区ごとの健康推進員数を概ね100世帯に1人から人口割りとし、定数の変更を行った。25年度からの第7期健康推進員は58人でスタートした。

第7期1年目は健康推進員研修会への参加と、今までの地区活動の継続や区の活動に参加することが中心となった。さらに、今年度は大口町健康づくり計画「健康おおぐち21 第二次計画」策定において住民主体の地区組織として意見交換会を実施し、第二次計画の推進に向けての足掛かりとした。



(1) 健康推進員全体活動

(単位：人)

実施月日	内 容	参加人数
11月2日(土)	健康まつりの一環としてウォーキング大会 各地区から広場までウォーキングコースを設定し実施	403
11月2日(土)	大口町ふれあいまつり2013にて 健康まつり(健康おおぐち21推進)	1,200

(2) 健康推進員研修会実施状況 (計7回実施)

(単位:人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
4月22日(月)	委嘱状交付式 講義「大口町の現状について」	健康生きがい課職員	50
5月16日(木)	講義「ボランティア活動のすすめ」	ハートフルケアセミナー	43
6月20日(木)	講義「ボランティア活動に生かす コミュニケーションスキル」	ハートフルケアセミナー	52
8月2日(金)	運動実技 ①元気体操を覚えよう ②ポールウォーキングを体験しよう	健康運動指導士	41
9月24日(火)	講義「体力測定の意義について」	東海学園大学 准教授	44
1月23日(木)	講義「認知症サポーター養成講座」	地域包括支援 センター職員	41
3月3日(月)	視察研修「ポールウォーキング実践編」	健康運動指導士	34

(3) 代表健康推進員連絡会実施状況 (計9回実施)

実施月日	主 な 内 容
平成25年 5月1日(水)	平成25年度代表健康推進員連絡会役員選出と運営について 平成25年度健康推進員活動交付金について 地区活動について・情報交換 結核肺がん検診への協力について
6月10日(月)	結核肺がん検診の実績報告について(反省会) 地区活動についての情報交換
8月19日(月)	ウォーキング大会について ・コース設定・募集チラシと参加者の締切・役割分担(案)等 ・参加記念品の検討 健康おおぐち21第二次計画策定の意見交換会について 西小学校区ポールウォーキング講座について
9月3日(火)	北小学校区ポールウォーキング講座について ウォーキング大会について ・借用物品の確認・募集チラシ(案)等
9月24日(火)	ウォーキング大会について ・コースの提出・参加者名簿の提出・参加記念品
10月24日(木)	ウォーキング大会について ・当日の役割分担確認・タイムスケジュール等 健康まつりへの参加について 西小学校区ポールウォーキング講座について 小学校区体力測定について

実 施 月 日	主 な 内 容
11 月 14 日 (木)	ウォーキング大会・健康まつりについて (反省会) 西小学校区ポールウォーキング講座について 小学校区体力測定について 地区活動 (中間報告) について 先進地視察について
平成 26 年 1 月 16 日 (木)	地区活動 (中間報告) について情報交換 西小学校区ポールウォーキング講座の報告について 小学校区体力測定の報告について 視察研修会について
3 月 20 日 (木)	視察研修の報告について (反省会) 平成 25 年度健康推進員地区活動の実績報告について 平成 26 年度地区代表者の選出について 平成 26 年度健康推進員地区活動計画について

(4) 地区自主活動の状況

地 区	活 動 状 況
秋 田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太極拳教室（毎月第2、第4金曜日） 毎回 20 人 ・ 秋田グランドゴルフ練習（毎週月曜日） 50 人 ・ 早朝さわやか太極拳とポールウォーキング（全2回） 42 人 ・ 秋田ふれあい盆踊り大会 ・ 秋田グランドゴルフ春季大会 61 人 ・ 健康まつり・ウォーキング大会 41 人 ・ 秋田グランドゴルフ秋季大会 72 人 ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ（随時）
豊 田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康推進だより発行（年3回） ・ ゴキブリ団子づくり 24 人 ・ 早朝ラジオ体操（7月下旬1週間） 延べ 120 人 ・ ウォーキング大会 36 人 ・ 健康講座「健口歯つらつ（歯と口の健康）」 42 人 ・ しなやかお達者の会参加（毎月2回・年間24回） 平均 13 人 ・ 地区盆踊り大会への参加 ・ 町民体育祭への参加 ・ 豊田区自主防災訓練への参加 ・ 豊田コミュニティー推進協議会事業 ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ（随時）
大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新田地区「いっぷく茶屋」活動支援 平均 40 人 ・ ゴキブリ団子作り 21 人 ・ 地区盆踊り大会練習 1回 30 人 ・ 地区盆踊り大会支援 約 400 人 ・ 町民体育祭参加 ・ 健康まつり・ウォーキング大会 43 人 ・ 防災訓練及び芋煮収穫祭支援 約 180 人 ・ 栄養実習「ヘルシークッキング」 17 人 ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ（随時）
外 坪	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親善グランドゴルフ大会 50 人 ・ グランドゴルフ練習（毎月2回） 48 人 ・ 外坪区老人クラブの集いとグランドゴルフ大会 46 人 ・ 盆踊りの練習（4回） 延べ 196 人 ・ 地区盆踊り大会支援 ・ 町民体育祭参加 ・ 健康まつり・ウォーキング大会 26 人 ・ 地域ふれあいバスウォーキング大会 44 人 ・ 地区ミニグランドゴルフ大会 44 人 ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ（随時）

地 区	活 動 状 況
河 北	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトウォーキング（月2回） 毎回約 12 人 ・北地域まちづくりへの参加 ・和のフィットネス「N O S S」 ・地区盆踊り大会への参加 26 人 ・高齢者ふれあい事業への参加（仲沖） ・健康まつり・ウォーキング大会 13 人 ・高齢者ふれあい事業への参加（二ツ屋） 51 人 ・骨盤体操教室（全2回） 24 人 ・健康講座「高齢者のかかりやすい病気について」 25 人 ・区への活動報告会 34 人 ・地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・活動内容の検討と打ち合わせ（随時）
余 野	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム体操（月2回） 各回 10～15 人 ・健康体操（週1回） 各回 10～15 人 ・グランドゴルフ大会 66 人 ・余野夏祭り実行委員会への参加 ・バスウォーキング（気比の松原） 41 人 ・健康まつり・ウォーキング大会参加 27 人 ・西小学校区ポールウォーキング講座（全5回） 延べ 95 人 ・健康料理教室 ・地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 20 人 ・活動内容の検討と打ち合わせ（月1回）
上小口	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトウォーキング（全9回） 延べ 92 人 ・グラウンドゴルフ大会 37 人 ・ポケットパーク草取り ・盆踊り講習会（2回） 70 人 ・ポールウォーキング講座 25 人 ・町民体育祭参加 ・健康まつり・ウォーキング大会 34 人 ・上小口地区運動会 ・健康出前講座「高齢者のシグナル」 60 人 ・区防火訓練参加 ・犬山城下ウォーキング大会 43 人 ・地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・活動内容の検討と打ち合わせ（随時）
中小口	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ練習（毎週月曜日） 毎回約 28 人 ・健康体操（毎週火曜日） 毎回約 20 人 ・中小口・垣田グランドゴルフ交流会 45 人 ・健康講座「10歳若返る健康教室・血管を守ろう」 38 人 ・バスウォーキング（恵那市坂折棚田） 43 人 ・健康まつり・ウォーキング大会 34 人 ・中小口グランドゴルフ大会 34 人 ・地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援

地 区	活 動 状 況
下小口	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナイトウォーキング（毎週金曜日） ・ 地区盆踊り大会手伝い ・ 太極拳講習 39 人 ・ 健康まつり・ウォーキング大会 53 人 ・ 下小口ウォーキング大会 56 人 ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ
垣 田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 垣田グランドゴルフ大会 13 人 ・ 中小口グランドゴルフ交流戦 10 人 ・ 垣田夏祭り参加 ・ 町民体育祭参加 ・ 健康まつり・ウォーキング大会 14 人 ・ 西小学校区ポールウォーキング講座（全5回） 延べ 33 人 ・ 垣田ウォーキング大会 18 人 ・ グランドゴルフ練習（毎週月・水曜日） 毎回 7～15 人
さつき ヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区結核肺がん検診の周知啓発と当日支援 ・ 2万人体力測定への参加 11 人 ・ 親睦バスハイキング（近江八幡） 51 人 ・ 子供会支援（すいか割り大会・キャンプファイヤー） 70 人 ・ 子供会支援（夏休みラジオ体操・7月下旬と8月下旬） 約 400 人 ・ 納涼まつり支援 ・ AED講習会 16 人 ・ 町民体育祭参加 ・ 健康まつり・ウォーキング大会 51 人 ・ 西小学校区ポールウォーキング講座（全5回） 延べ 62 人 ・ 西小学校区体力測定参加 10 人 ・ 健康講話とブラジル料理講習会 26 人 ・ 健康講話「糖尿病について」 50 人 ・ 活動内容の検討と打ち合わせ（随時）

2 健康おおぐち21計画推進

平成15年度に「健康づくりの主役は住民」「健康づくり＝町づくり」と捉え、大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と町職員が共に考え策定した。

今年度は第一次計画の評価と、第二次計画の策定年度であった。

第一次計画の推進は昨年度に続いて「血管を守ろう！」を合言葉に、元気づくりプロジェクト（介護・国保・健康・福祉の各グループの連携プロジェクト）と連携し、特に生活習慣病予防に重点を置き、今日から始めることができる予防の提案として、「歩くこと」「体重を計ること」「野菜を食べること」の啓発を行った。

運動の習慣づけとして、ポールウォーキングの普及を継続し、小学校区単位でのポールウォーキング講座を開催した。さらに今後も継続して普及啓発していけるよう、ポールウォーキングリーダー養成講座を開催した。

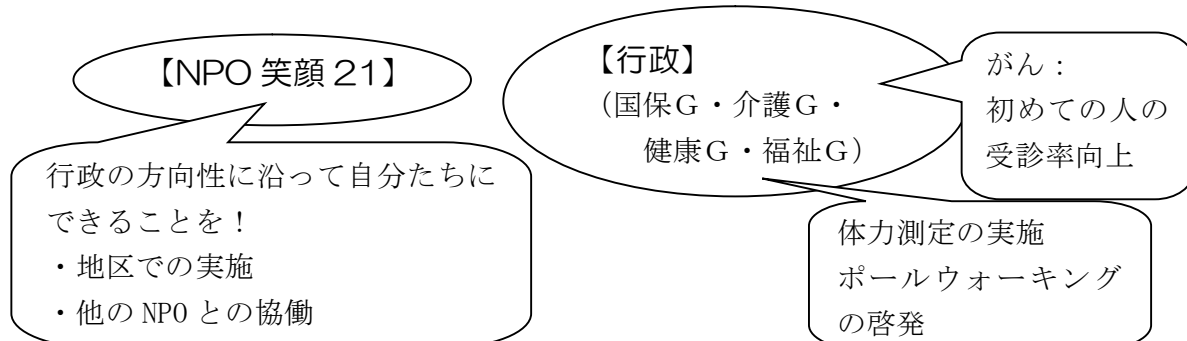
また、健康づくりのきっかけとして、健診と併せて、NPO法人や指定管理者とも協働で「2万人体力測定」を実施した。さらに、体力測定を定着させるために補助員として、元気づくりサポーターを養成した。体力測定は健康まつりや地区老人クラブでの実施と、毎月1回、トレーニングセンターにおいて定期開催をした。

(1) 健康おおぐち21第一次計画の推進実施状況

運動・生活活動	<ul style="list-style-type: none"> ・元気体操 ウォーキング MAP の周知 ・ポールウォーキングの周知啓発 ・元気体操の普及（さくら大学（毎月）・南小）
食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の野菜料理教室（年3回） ・「おおぐち町産旬の野菜レシピ」の製本・販売
こころ	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの標語 各掲示板に掲示 ・「広報おおぐち」にこころの標語を掲載 ・自殺予防キャンペーンの街頭啓発
歯の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室等で唾液線マッサージやお口の体操を実施
たばこ	<ul style="list-style-type: none"> ・受動喫煙の防止
生活習慣病予防	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診受診率向上についての取り組み ・ポールウォーキングの啓発 ・「2万人体力測定」の実施

健康おおぐち21 推進10年目の方向性

～ 健康で 笑顔のおおぐち 今日も元気 明日も元気 ～



(2) 健康おおぐち21計画推進イベント

ア 目的

健康おおぐち21第一次計画の推進の一環として、より多くの人へ計画の周知と健康づくりのきっかけとなるよう、ふれあいまつり2013の中で「健康まつり」として実施。

イ 日時

平成25年11月2日(土) 午前10時～午後3時

ウ 場所

健康文化センター 1階～5階

エ スタッフ

健康クラブ笑顔21・健康推進員・高齢者福祉協力員・脱メタボおじさまの会・リンクワークス・尾北断酒会・国保連合会在宅保健師・歯科衛生士会・薬剤師会・東海学園大学・健康生きがい課・戸籍保険課

オ 内容及び参加人数

テーマ「血管を守ろう！ ～伸ばそう健康寿命～」

参加者数 約1,200人(総合受付通過人数)

【実施コーナーの体験人数】【午前/午後】

(単位：人)

コーナー名 (午前/午後)	参加人数	コーナー名 (午前/午後)	参加人数
健康チェックコーナー【多目的室】			
①脈波チェック (134/131)	265	⑥脳トレ	237
②血管年齢チェック (100/106)	206	⑦アルコールパッチテスト	108
③体組成測定 (76/66)	142	⑧歯科衛生士さんのお口チェック	201
④健康相談・栄養相談 (83/82)	165	⑨咬む咬むチェック (68/72)	140
⑤ロコチェック	167	⑩足裏画像測定	141
		⑪シューフィッター (25/15)	40
【ほほえみプラザロビー】			
⑫大口町産旬の野菜コーナー・旬の野菜レシピ本販売			28
⑬癒しの抹茶コーナー(機能回復訓練室) ※抹茶券販売の他無料招待分 300(介護施設・介護者慰労)			118
⑭ハンドマッサージ・エステ体験	11	⑱ポールウォーキング体験講座	47
⑮整膚体験	14	⑲体力測定	168
⑯頭皮マッサージ	8	⑳トレーニングセンター無料体験	21
⑰お試しポールウォーキングコーナー	66		

(3) 健康おおぐち 2 1 第一次評価と第二次計画策定

健康おおぐち 2 1 第一次計画の進捗状況等を踏まえ、評価指標を通して、健康実態調査、医療費分析や各種健康診査等分析結果を基に評価を行い、課題を明確にした。

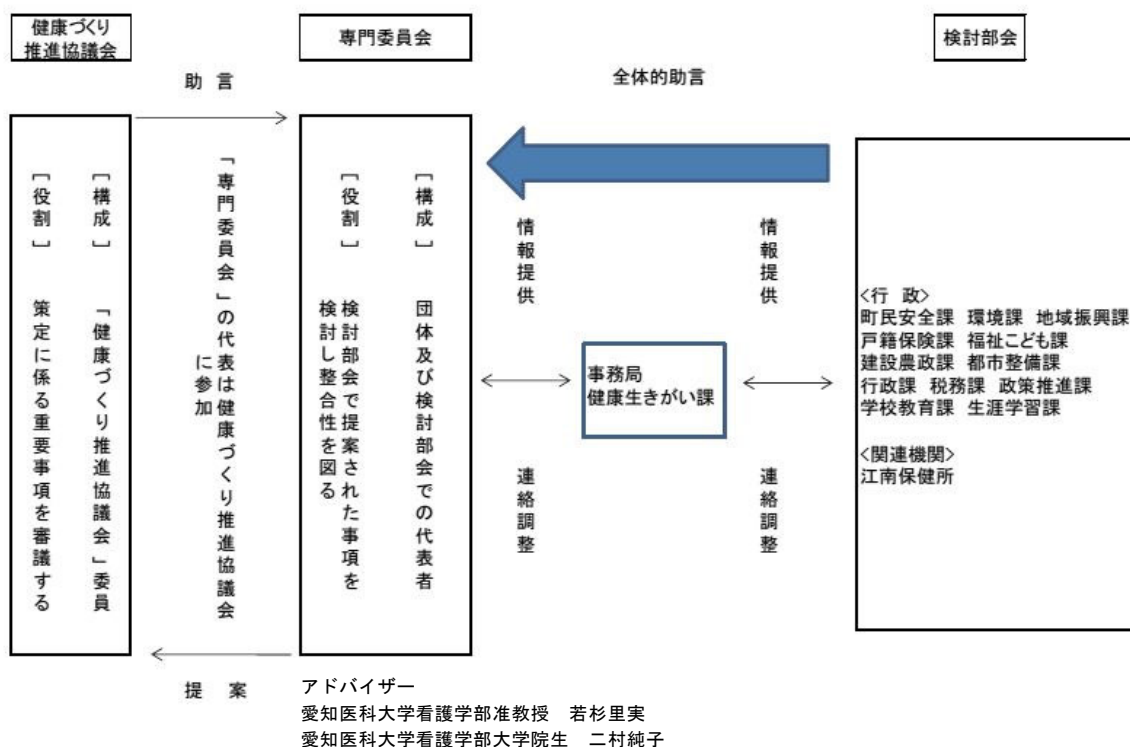
そして、「大口町総合計画」「特定健康診査等実施計画」「大口町高齢者ほほえみ計画」「大口町次世代育成後期行動計画」「大口町障がい者ほほえみ計画」等、各計画の健康に関する部分や、「健康日本21あいち新計画」等との整合性を勘案しながら第二次計画を策定した。

計画策定の体制としては、計画の策定及び推進が全庁的な取組となるよう、庁舎内 5 部 12 課及び江南保健所の職員を選出し、さらに学識経験者をアドバイザーとして依頼し検討部会を立ち上げた。検討部会では、第一次計画の評価から浮かび上がってきた課題を第二次計画に反映させるための検討会を 3 回実施した。

さらに、関係団体及び検討部会の代表者で構成する専門委員会を設け、検討部会で提案された事項について検討を行い、「大口町健康づくり推進協議会」を策定委員会と位置づけた。

一方で、住民の健康に関する現状や課題をたずね、課題解決や健康づくりのための提言、新たな取組を検討するためのヒントを得ること等を目的として、健康づくりに関係する団体へのヒアリングを実施した。さらに、乳幼児、学童、生徒の健康に関する現状や課題を整理するために学校・保育園との意見交換会を設け、課題解決や健康づくりのための提言、新たな取組を保育士、養護教諭と検討した。

「健康おおぐち 21 第二次計画」策定の体制図



「健康おおぐち 21 第二次計画」策定経過

年月日	事項	内容
平成24年8月14日～ 8月31日	「健康や生活習慣等に関するアンケート」実施	20歳～64歳の人 4,000人
平成25年5月31日	健康おおぐち21評価第二次計画策定業務委託契約	
6月～7月	現状把握と課題整理	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次計画の評価 ・住民の健康状態 ・関係課の取組状況 ・住民、関係団体の取組状況
7月1日	第1回健康づくり推進協議会	計画骨子、策定スケジュール説明
7月25日	町議会に計画策定概要説明	
8月～9月	関係団体ヒアリング（7団体）＊	第一次計画の評価を踏まえ、課題解決に向けての取り組み策
8月5日	学校との情報交換会	計画の見直し、現状と評価、第二次計画
9月6日	第1回健康おおぐち21第二次計画検討部会	計画の見直し、現状と評価、第二次計画策定
9月12日～9月27日	第2回健康おおぐち21第二次計画検討部会（各課ヒアリング）（14課）	「健康づくり＝まちづくり」に繋がる事業の聞き取り
9月12日	保育士へのグループインタビュー	第二次計画策定
9月中旬	小学生・中学生へ「生活習慣アンケート」実施	小学校3年生・6年生 中学校3年生
10月4日	第3回健康おおぐち21第二次計画検討部会	第二次計画策定
11月8日	第1回健康づくり推進協議会専門委員会	計画の素案づくり
11月22日	町議会に計画策定経過に係る経過説明	
12月20日	第2回健康づくり推進協議会	計画中間報告
平成26年1月30日	第2回健康づくり推進協議会専門委員会	計画最終協議 概要版協議
2月1日～2月14日	計画（案）のパブリックコメント	意見公募 2週間
2月27日	第3回健康づくり推進協議会	パブリックコメント結果報告、修正、計画最終協議、承認
3月	町議会に健康おおぐち21第二次計画策定報告	
5月	計画概要版全戸配布	

＊さくらメイト、子ども連絡協議会、ウィル大口スポーツクラブ、健康推進員、健康クラブ笑顔 21、脱メタボおじさまの会、トレーニングセンター

3 国保・介護・健康・福祉グループ間の連携

(元気づくりプロジェクト) 取組状況

取組みの背景・状況

年々伸び続ける国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険などの給付費は、今後の高齢者の増加に伴い、ますます増えていくものと思われる。町としては医療や介護の給付費の抑制“給付を抑える＝予防”を図ることが必要である。

そこで平成22年度から、戸籍保険課国保グループ、健康生きがい課介護グループ、健康グループが連携をして、国保・介護・健康の総合的な視点から現状の把握と分析に努め、得られたデータを基に、住民に対して、医療や介護の現状の理解、健康への関心を高めるため地区での説明会を開催してきた。

また、医療費分析の結果から、本町は脳血管疾患での受診率が高く、その医療費も高いこと。血管は、肥満や高血圧、高血糖・脂質異常などの影響を受け、一つひとつのリスクが積み重なることで、動脈硬化の状態が進行し、その結果脳血管疾患などの病気を発症してしまうことから、「血管を守ろう!」を合言葉に「おおぐち2万人元気計画」～10年後も元気でいよう!～の取り組みを展開している。

(1) 住民等に対する周知活動

ア 「血管を守ろう」啓発用リーフレット配布

今年度は、医療費が高いベスト1が歯周病であることから、歯周病と糖尿病の関係を啓発するリーフレットを作成し配布

戸籍保険課 特定健診受診票と共に送付

健康生きがい課 65歳到達時に介護保険被保険者証と共に送付

窓口・健康教室・講演会・地区説明会等で配布

イ 広報おおぐちによる周知

元気づくりプロジェクト通信（平成23年度10月号から掲載中）

平成25年10月号は、体力測定を特集で掲載し、11月号からは、体力測定の1種目ずつの内容等について紹介

(2) 2万人体力測定の実施

実施者数：601人

	日 時	内 容	参加人数	実施主体
1	6月8日（土）	ほほえみまつりにて実施	104人	トレーニングセンター
2	11月2日（土）	健康まつりにて実施	166人	東海学園大学に委託

	日 時	内 容	参加人数	実施主体
3	11月24日(日) 12月1日(日) 12月8日(日)	南小学校にて実施 北小学校にて実施 西小学校にて実施	33人 26人 35人	トレーニングセンターに委託 計94人
4	4月～3月 毎月第2水曜日	トレーニングセンターにて実施	62人	トレーニングセンターに委託
5	6月6日 6月21日 6月26日 10月18日 11月15日 11月28日	下小口老人クラブ 秋 田 〃 余 野 〃 外 坪 〃 上小口 〃 中小口 〃	16人 49人 38人 22人 36人 14人	ウィル大ロスポートクラブに委託 計175人

○東海学園大学の協力

- ・体力測定の実施及びデータの分析
- ・元気づくりサポーター養成講座開催 10月21日 23人参加

(3) ウォーキング・ポールウォーキングの推進

ア ポールウォーキング教室の実施

日 時	場 所	内 容	備 考
*4月～ 7月	健康文化センター 多目的室	国保事業として12回コースで実施 ポールウォーキングについての 講義・実技 講師：健康運動指導士 長谷川 弘道氏	延参加者 280人
4月～6月	秋田学共施設	南小学校区の活動として6回コース で実施	99人
11月～1月	余野学共施設	西小学校区の活動として5回コース	204人
8月	①健康文化センター ほほえみホール	健康推進員研修会	41人
3月	②養老公園		34人

※教室終了後、引き続き自主グループとして毎週水曜日に継続中(登録53人)
自主グループは、「ポールウォーキングひろめ隊」として健康まつり時や桜並木ジョギング大会にポールウォーキングの紹介等を実施した。

イ ポールウォーキングリーダー養成講座

	日 時	内 容	参加人数	講 師
1	8月29日(木)	ポールウォーキングリーダーの役割について	19人	健康運動指導士 長谷川弘道 氏
2	9月5日(木)	参加者へポールウォーキングの方法を伝える	19人	
3	9月12日(木)	講座内容の組み立てについて ・ポールエクササイズの講義、スクワットの実技 ・ポールウォーキングの特徴とメリットを説明する実技	20人	

(4) 健康おおぐち21第二次計画(検討部会)

日 時	場 所	内 容	参加人数
9月6日 (金)	健康文化センター 多目的室	・健康づくり計画の趣旨について ・自分の健康状態の振り返り ・大口町の健康施策の確認と方向性	21人
9月12日～ 9月27日	庁舎内各課事務室	・健康なまちづくりに向けて 各課での「健康づくり＝まちづくり」 につながるような事業の聞き取り	11課
10月4日 (金)	健康文化センター 多目的室	・健康おおぐち21第二次計画への 反映	22人

(5) 食育の取り組み

庁舎内の横断的な食育の取り組みとして、町立保育園での園児を対象とした食育に取り組む一方で、食生活を担う保護者を対象とした健康教育の必要性を感じ、保護者の集まる場所を関係部署と調整し連携して開催した。

日時及び場所	内容	参加人数
5月・6月 各保育園遊戯室	子育て講演会 「おやつと虫歯の話」 ・歯科健診結果 ・降園後におすすめのおやつと口腔内のph 「弁当箱栄養法」 ・弁当箱給食の意味と栄養バランスのとり方 ・家庭でのお手伝いについて	4園合計 295人
2月 北小学校家庭科室	学校保健委員会 「早起き 早寝 朝ごはん」 ～朝から元気な北っ子 朝食の大切さを知ろう～	20人

	栄養教諭考案のメニューと保護者から募集した朝食メニューを実習した。	
--	-----------------------------------	--

(6) その他

ア 依頼による活動紹介

日 時	内 容	参加人数
8月20日 (金)	老人クラブ出前講座 「血管を守ろう！～伸ばそう健康寿命～」	150人
12月7日 (土)	(株)いずみ 社員研修 「高齢化社会をより豊かに生き抜くために」	100人

取り組みの評価

平成25年度は、①特定健診・特定保健指導の受診勧奨 ②2万人体力測定 ③ウォーキング・ポールウォーキングの推進 ④健康おおぐち21第二次計画の策定を取り組みの柱に活動してきた。少しずつではあるが、町全体で健康づくりをすることの意識づけにつながっており、健康おおぐち21第二次計画にも元気づくりプロジェクトの内容を盛り込み進めていくことになる。

「みんながイキイキ元気なまち」を目指した、プロジェクトの取り組みも3年が経過し、計画内容を関係者ととも振り返り評価する必要がある。

6 感染症予防事業

1 予防接種

予防接種は、感染症予防のために最も有効な手段の一つである。その目的を果たすためには、予防接種法等関係法令の規定に基づき、乳幼児や学童・高齢者に対して、安定的に予防接種の機会を提供し、安全で有効な予防接種を実施し、一定の接種率を確保することが重要である。本町では広報・ホームページ等で周知し、未接種者を把握し乳幼児健診・個別通知等で勧奨を行い接種率の向上に努めている。

(1) 個別接種実施体制

就学前の乳幼児に対しては出生届出時に戸籍保険課において、予防接種予診票綴と「予防接種と子どもの健康」を交付している。学童の接種対象者については、個別通知にて予診票を送付し、予防接種を受けるよう周知している。転入者については保健センターで予診票の交付（差し替え）を行っている。

インフルエンザ予防接種は、対象者ごとに個別で予診票を送付し、希望者は委託医療機関にて一部負担金（1,000円）を支払い、接種を受けるよう周知している。

ア 個別接種の種類と接種期間

四種混合、三種混合、二種混合、MR（1期・2期）、日本脳炎、ポリオ、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防接種は4月から3月まで一年を通して実施し、インフルエンザ予防接種(65歳以上)は11月1日～12月28日の期間で実施した。

イ 予防接種会場

予防接種の種類		接種方法	接種会場
A 類疾病	四種混合 (百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオ)	個別接種	大口町・扶桑町 江南市・犬山市の 委託医療機関 (予約制) ※H24.6.1から追加 小牧市・岩倉市・ 春日井市の委託 医療機関
	三種混合 (百日せき・ジフテリア・破傷風)		
	二種混合 (ジフテリア・破傷風)		
	MR (麻しん・風しん混合) ・麻しん・風しん		
	日本脳炎		
	ポリオ(急性灰白髄炎)：不活化ワクチン		
	ヒブ		
	小児用肺炎球菌		
	子宮頸がん		
B 類疾病	インフルエンザ		
A 類疾病	BCG	集団接種	保健センター

(2) 実施状況

平成 25 年 4 月 1 日付で予防接種法が改正され、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防接種が定期予防接種として位置づけられた。なお、子宮頸がん予防接種との因果関係を否定できない持続的な疼痛が接種後に特異的にみられたため、同年 6 月 14 日付で定期接種を積極的に勧奨すべきではないとの厚生労働省からの勧告を受け、当町も子宮頸がん予防接種の積極的勧奨を差し控えている。

(単位：人・%)

A 類疾病		25 年度			24 年度	23 年度	22 年度
		対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率
四種混合	第 1 期初回 1 回目	194	185	95.4	61.1		
	第 1 期初回 2 回目	191	194	98.5	36.8		
	第 1 期初回 3 回目	208	189	90.9	21.1		
	第 1 期追加	171	11	6.4	0.0		
三種混合	第 1 期初回 1 回目	91	36	39.6	82.1	91.2	85.1
	第 1 期初回 2 回目	93	39	41.9	89.0	91.2	87.4
	第 1 期初回 3 回目	95	41	43.2	96.1	94.4	84.6
	第 1 期追加	338	231	68.3	98.0	74.3	95.1
二種混合	第 2 期	243	207	85.2	84.0	78.6	88.8
麻しん・ 風しん混合 (MR)※ ¹	第 1 期	204	228	100	99.5	95.6	97.1
	第 2 期	239	231	96.7	91.1	95.2	95.9
	第 3 期				89.6	89.7	92.1
	第 4 期				91.3	91.2	88.1
日本脳炎	第 1 期初回 1 回目	620	319	51.5	36.5	55.2	—
	第 1 期初回 2 回目	620	324	52.3	36.3	56.8	—
	第 1 期追加	574	326	56.8	75.4	65.9	—
	第 2 期	236	87	36.9	—	—	—
ポリオ (不活化 ワクチン)	第 1 期初回 1 回目	56	45	80.4	53.3		
	第 1 期初回 2 回目	84	60	71.4	72.1		
	第 1 期初回 3 回目	89	66	74.2	72.7		
	第 1 期追加	342	222	64.9	0.0		
B C G		192	188	97.9	96.3	97.8	100.0

A 類疾病		25 年度			24 年度	23 年度	22 年度
		対象者	被接種者	接種率	延べ 接種回数 (被接種 者数)	延べ 接種回数 (被接種 者数)	延べ 接種回数 (被接種 者数)
ヒブ	1 回目	339	280	82.5	804 (436)	661 (371)	208 (178)
	2 回目	250	218	87.2			
	3 回目	276	238	86.2			
	4 回目	371	248	66.8			
小児用 肺炎球菌	1 回目	347	301	86.7	832 (427)	792 (437)	235 (205)
	2 回目	403	243	60.3			
	3 回目	423	233	55.1			
	4 回目	344	201	58.4			
子宮頸がん 予防 (ヒトパピロ マウイルス感染症)	1 回目	360	37	10.3	217 (126)	679 (341)	247 (134)
	2 回目	363	25	6.9			
	3 回目	380	23	6.1			

B 類疾病		25 年度			24 年度	23 年度	22 年度
		対象者	被接種者	接種率	接種率	接種率	接種率
高齢者インフルエンザ(65 才以上)		4,814	2,966	61.6	60.1	61.4	66.7

※¹MR 第 3 期・第 4 期：麻しん排除計画による平成 20 年度～24 年度までの 5 年間の時限措置。

(3) 日本脳炎

平成 17 年 5 月 30 日から接種の積極的勧奨が差し控えられていたが、平成 23 年 5 月 20 日付の国からの通知により、第 1 期初回及び追加接種の標準的な接種期間の該当者（3 歳及び 4 歳）と国の示す年齢の対象者へ積極的な接種勧奨を行うこととなり、平成 7 年 6 月 1 日～平成 19 年 4 月 1 日生まれの人は、4 歳以上 20 歳未満まで接種できる機会が延長されている。なお、平成 25 年度は 7 歳、8 歳の 1 期未接種分と 9 歳、10 歳の 1 期追加接種の積極的勧奨を行い、予防接種を実施した。

(4) 高齢者肺炎球菌

平成 23 年 6 月 1 日から下記の対象者に対して、高齢者が肺炎球菌ワクチン予防接種を受けやすい体制を整備し、肺炎球菌に起因する肺炎の発症及び重症化を予防することを目的に、高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種費用の一部（又は全額）を助成している。

ア 対象者

75歳以上の高齢者及び60歳以上75歳未満で心臓・腎臓または呼吸器の機能に自己の身の日常生活が極度に制限される程度の障害を有する者またはヒト免疫機能に障害(身体障害者手帳1級相当)を有する者。

イ 助成内容

接種費用助成額 4,000円

(町民税非課税世帯及び生活保護世帯の方は8,000円。事前申請が必要)

ウ 助成実績

被接種者(4,000円助成)	被接種者(8,000円助成)
78人	19人

※被接種者合計は97人。8,000円助成者のうち1人は75歳未満で対象となる人。

※今年度申請した人のうち、未接種者4名。

(5) 風しんワクチン接種費用助成

平成25年7月1日から下記の対象者に対して、妊娠初期の妊婦が風しんに感染した場合の胎児への先天性風しん症候群予防として、風しんワクチン接種費用の一部を助成している。

ア 対象者

妊娠を予定または希望する女性

妊娠を予定または希望する女性の配偶者または事実上婚姻関係にある者

妊娠している女性の配偶者または事実上婚姻関係にある者

イ 助成内容

風しんワクチン接種費用の半額(上限5,000円)

(町民税非課税世帯及び生活保護世帯の方は全額助成。)

ウ 助成実績

	助成人数
妊娠を予定または希望する女性	65人(うちR11人、MR54人)
妊娠を予定または希望する女性の配偶者等	52人(うちR10人、MR42人)
妊娠している女性の配偶者等	11人(うちR2人、MR9人)

*R:風しんワクチン MR:麻しん・風しんワクチン

7 その他

1 学生実習指導

公衆衛生の視点を持った保健師、管理栄養士、看護師を育成するため、地域で行われている公衆衛生看護・栄養活動を学ぶ場として実施している。多岐にわたる役割の中で、生活の基盤となる公衆衛生の実践を学び、臨床と地域の連携を進めていく上でも大切な場となっている。また学生指導を通して、日々行っている保健活動を改めて見直す機会となっている。

学 校 名	養成課程	実習生数（人）	実習期間
名古屋医専 保健学科	保健師	3	平成 25 年 12 月 3 日～6 日
中部大学 生命健康科学部 保健看護学科	看護師 保健師	3	平成 26 年 2 月 24 日、25 日、27 日

※学生は母子保健・成人保健及び住民と協働で進める健康づくりの取り組みを見学し、また対象者の特徴にあわせた媒体作成、健康教育、地区把握等を学ぶ。

2 調査・研究

事例集

新しい健康日本21へのヒント⑦ | 第2次健康日本21がめざす「社会環境の改善」「健康格差の縮小」などにつながる保健活動の先行事例を紹介するコーナーです。

大口町「健康クラブ笑顔21」 9年間の地道な歩み

NPO 団体として自立した活動を実現

大口町健康福祉部健康生きがい課

松井昌子／永津久美子／田北美里／川崎陽子／
吉山晃代／春日井幾子／鈴木美帆

近藤美保 大口町戸籍保険課

若杉里実 愛知医科大学看護学部



大口町の概要

愛知県大口町は愛知県の西北部、名古屋市から18 kmの近郊にあり、恵まれた自然と広大な田園地域が広がる住宅地である(図)。2013(平成25)年4月現在の人口は2万2811人、世帯数8371世帯。2012(平成24)年の出生数は214人でわずかに減少傾向、高齢化率は19.7%で全国と愛知県の平均を下回っている。保健活動の体制としては、健康生きがい課(保健センター)に保健師6名、管理栄養士1名、戸籍保険課に保健師1名が勤務している。

図 大口町の位置



取り組みの背景

2003(平成15)年度の健康おおくち21計画づくりでは、「健康づくりの主役は住民」「健康づくり=まちづくり」の考えをもとに、策定委員会(健康づくり推進協議会委員)、検討委員会(各部会の代表者)、検討部会(町民、行政、関係機関、アドバイザー)を設置して進めた。検討部会の町民は13団体19名、行政は町の14の課の代表が参加し、住民や役場職員がそれぞれの立場や価値観をもちつつ、1人の生活者としての目線で、個人、家族、地域、町のそれぞれの健康について話し合いを重ねた。それとともに、町民の健康実態調査結果からみんなで健康について考えることを目的に地区学習会を開催し、住民の生の声を集めていった。

健康づくりは個人のみではなく、家族や地域の人、行政などが協力・連携し合い、環境を整えながら一緒に進めていくことで継続できる。町のめざす姿である「健康で笑顔のおおくち 今日元気 明日元気」に向かって、検討部会で熟く語られたさまざまな思いや夢を形にするためにはどうしたらよいか、町のめざす姿に向かって「自分は何ができるのか」「地

域・団体では何ができるのか」「行政は何ができるのか」を検討した。そして、健康に関するさまざまな意見をもとに、「運動」「食生活」「こころ」「たばこ・アルコール」「歯」の5つの分野に分け、「目標」と「みんなができるための条件」「みんなで取り組めそうなこと(個人・家庭、地域・団体、行政)」を整理し、計画を作成した。

健康おおぐち21計画づくりをきっかけに、計画を推進していく10名の住民のグループ「健康クラブ笑顔21」が2004(平成16)年4月に発足した。グループメンバーは、自分が得意とすること、興味のあることを中心に考え、上記の5分野に分かれて活動した。2007(平成19)年度の計画の中間評価後は「生活習慣病予防」分野を加え、6分野とした。現在は20名のメンバーで活動を行っている。

「健康クラブ笑顔21」がNPO団体に

地方分権の進展に伴い、自分たちの地域のことは自分たちで考え、責任をもって決めていく住民自治の時代が来ている。大口町では「住民の参画と参加のまちづくり」を目標に掲げ、1人ひとりの「自立の精神」を大切にしながら、互いに思いやりのある優しい気持ちで見守り支え合う「共助の精神」をみんなで共有していくために、住民、NPOおよび企業が協働して取り組んでいる。

「健康づくりの主役は住民」なので、保健師が企画するのではなく、住民に趣旨を伝えて、企画・実施は住民主体で行えるよう活動資金を獲得し、自立した活動展開をする必要がある。そのため、2007年に「健康クラブ笑顔21」は大口町のNPO団体の1つとして登録され、独立して活動を行うこととなった。

「健康クラブ笑顔21」は大口町のNPO団体

として独立した後、地域振興課など保健師以外の行政職員とのつながりができ、行政のパートナーとして力を蓄えていった。加えて、他のNPO団体との横のつながりから、視野も広がり、自立性が増し、他の団体と協力しながら施策を増やしていくという知恵や工夫が生まれ、健康づくり・まちづくりに活かされている。

「健康クラブ笑顔21」の活動内容

9年間で6分野の活動すべてを遂行することを団体の大きな目標に掲げ、毎年重点的に取り組む分野を決めて活動を展開してきた。取り組む分野の一部を紹介する(表)。

●健康おおぐち21の周知啓発の取り組み

計画を推進するために、町の「元気なまちづくり事業」に申請し、「春だ!笑顔だ!元気まつり」を実施した。また、計画推進のためのシンボルマークが一般公募で「ハッピー&スマッピー」に決まったことから、児童センターでマスコット作成教室を実施し、手作りマスコットを販売したり、手作りのぼり旗を作成し、計画の概要版を配布した。

広報に「健康おおぐち21コーナー」を連載し、広報無線による健康ワンポイントアドバイスも行った。2011(平成23)年度からは、「笑顔になれるハッピー&スマッピー健康教室」を月1回実施している。

●運動分野

運動分野では「元気体操」を作成した。足踏みを大きくするのか小さくするのかで運動量も違ってくるので、曲に合わせてゆったり動けるようアレンジするのに時間がかかった。元気体操の周知啓発のため、メンバーが“元気体操ひろめ隊”として役場の朝礼や体育祭、保育園、

表 「健康クラブ笑顔21」の歩み

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	
健康おおくち21 周知啓発		・元気なまちづくり事業に申請し「春だ！笑顔だ！元気まつり」を 実行委員会制で実施 ・町から「健康まつり」運営業務の委託 を受け実施			・大口町 NPO 団体に登録し、町と協働契約のもと に「健康まつり」を実施				・健康教室(月1回) → 実施	
運動	・元気体操 の作成	・元気体操の周知(元気体操ひるめ隊) ・ウォーキングマップの 作成・周知		・かたつむりの会(月2回ウォーキングマップのコースを歩く) ・「一歩幅測定とチャレンジ3000歩」の実施(健康まつり)					・ボールウォーキングの 紹介と普及	
食生活		・野菜の手ばかり体験(健康まつり) ・旬の野菜料理紹介(健康まつり)		・食生活の活動の掲示(町民ギャラリー) ・旬の野菜レシピの掲載(広報おおくち)					・レシピ本 の作成	
たばこ・ アルコール		・カンポイントアド/アイス (広報おおくち・広報無線) ・たばこの害・禁煙の啓発・新酒相談など(健康まつり)					・「たばこダメダス」啓発機関の拡大			
こころ	・あいさつ運動 ・ストレスチェック、笑いハウス、笑顔の写真展 (健康まつり)		・健康川柳、健康俳句を掲載 (広報おおくち)			・自殺予防キャンペーンの街頭での啓発 ・「こころの標語」を健康文化センター 内のトイレに貼付				
歳			・歳々の健康の啓発(健康まつり)		・歳々の講演会「世界で一番愛さたい話」 実施					
生活習慣病予防					・生活の中に運動効果を上げるための提案 (住民検診、骨密度測定) ・スロートレーニングの紹介と普及 ・がん検診の啓発 ・メタボ人形を作成し掲示 ・健康講演会「健康一歩、ピンコロ2歩」 を実施					

小中学校、老人クラブなどに出向き、体操を行った。

2005(平成17)年には「はじめの一歩 歩いてみよう大口町」のウォーキングマップを作るために歩行時間を実測しながら、大口町の中央を流れる五条川の端から端まで歩き、マップを作成した。その後、ウォーキングマップを活用して「かたつむりの会」として月2回コースを歩いたり、健康まつり時に「一歩幅測定とチャレンジ3000歩」を実施したりした。2011年度

からはボールウォーキングの紹介と普及に携わっている。

●食生活分野

食生活分野としては、健康まつり時に野菜の手ばかり体験、旬の野菜料理紹介を継続実施している。また、広報おおくちに「旬の野菜レシピ」を掲載したり、町民ギャラリーに食生活の活動を掲示したりした。さらに、9年間の料理レシピの中から選択した「手軽でかんたん野菜

料理」の本を500部作成し、販売した。

●たばこ・アルコール分野

たばこ分野としては、たばこの研修会に参加後、広報おおぐちや広報無線を使ってワンポイントアドバイスを行った。2005年度からは、健康まつりでの啓発、ロビーでの「妊婦の喫煙の害・赤ちゃんへの影響」の掲示と啓発チラシの設置を行った。2009(平成21)年度からは、愛知県受動喫煙防止対策推進事業として、薬局、医療機関、スーパー、金融機関などへ出向き、禁煙ダメダスマークを説明し、登録の拡大に努めた。2012年3月末には、「たばこダメダス」登録機関が40か所に拡大した。

アルコール分野としては、健康まつり時に断酒会の参加を得て、アルコールパッチテスト、アルコールクイズ、断酒相談などを継続実施している。

●こころの分野

こころの分野としては、あいさつ運動を継続実施するとともに、健康まつり時にストレスチェック、笑いハウスや、笑顔の写真展を継続実施している。また、元気体操の中にもあいさつ動作を入れたり、広報おおぐちに「健康川柳、健康俳句」を掲載するとともに、こころに響く「こころの標語」を健康文化センター内のトイレに貼付した。2009年度からは、自殺予防キャンペーンの街頭啓発を行っている。

9年間の活動を通じてのメンバーの思い

●メンバー全員が大切にしてきたこと

あいさつより一歩踏み込んだ「声かけ」で、こころが通じ合う関係をつくりたい、よい人間関係を地域の中へ、町中へ広げていきたいという思いのもと、自分の健康・生活と向き合いな



写真「健康クラブ笑顔21」のメンバー

がら、自分たちのライフワークの中でできることを続けてきた。打ち上げ花火的な活動ではなく、地道に9年間かけて6分野すべてに取り組んできたことが、いま力になっている。ここまでやってこれたのはグループの力と大勢の住民の喜びの声のおかげである。

●メンバーそれぞれの思い

以下、「健康クラブ笑顔21」のメンバー(写真)からのメッセージを紹介する。

- 「健康クラブ笑顔21に入って、何をしたいのかわからず引いたところもあったが、自分の健康というものを考えるようになった」
- 「人の健康を考えることが自分の健康にもつながる」
- 「人のために生きることが自分のためでもある。自分もやさしい気持ちになる」
- 「人に声をかけるには勇気がいるが、伝えていきたい」
- 「ここで勉強させていただいたことを自分と家族の健康のためにやっている」
- 「触れるということは物知りになる。耳に入ってくるものすべてが気になる。健康に関するテレビもついつい見てしまう。新聞も切り抜く。興味がわいてくる」
- 「自分の中でおおまかに食事の塩分がわかる。買い物でも食品の成分を見てから買う。油のないドレッシングをかけるとか、健康への意識が違ってくる」

事例集 新しい健康日本21へのヒント

- ・「自分がこうして元気でいられるのは、こういう活動をしてエネルギーをもらっているから。体の中から外から健康になった」
- ・「町民会館でもみんなの見本で歩かせていただいた。みんなから、なんでそんなに元気なのと聞かれる。歩くことも楽しみだし、ここに来させていただいていることがうれしい」

メンバーが考える今後の課題

今後は、「笑顔になれるハッピー&スマッピー健康教室(月1回実施)」に重きを置き、「笑顔で食事、笑顔で運動」のスローガンのもとに、料理教室とウォーキングやボールウォーキングを進めていく予定である。その他、今後検討していくべき課題を以下に項目ごとに整理した。

●歩く人たちを増やすために

- ・「運動をしなさい」と言われてもできる人とできない人がいるので、どうしたら興味をもってもらえるかを考えたい。まずは、近所の人に声をかけ、人の中に入っていくことを続ける。
- ・ボールを使用して歩きたい人には、基礎的な使い方を教える。

●メンバー自らが各地区に出向いていく

「笑顔で食事、笑顔で運動」をするためにはこころの健康が大切である。まずは、おしゃべりを主体にした教室を各地区で行いながら食事や運動のことを伝えていくことが、「笑顔で食事、笑顔で運動」につながるのではないだろうか。

●新たなイベントの企画

- ・「手軽でかんたん野菜料理」のレシピを使っ

た料理を作ってもらい、作った料理と「いい笑顔」の写真を集集し、「いい笑顔」の写真展を開催する。

- ・夏休みに「手軽でかんたん野菜料理」の中のレシピを使った親子料理教室を行い、味の感想などを聞きホームページに載せる。お母さんに参加してもらうことが若い世代の健康にもつながる。

●他の団体との協働

健康推進委員と一緒に料理教室を行うなど、他の団体と協働して活動を行う。

●健康クラブ笑顔21の継承

今後は40～50代の人たちにメンバーに加わっていただき、クラブを継承していくことも課題である。

健康クラブ笑顔21とともに 歩んできた保健師の思い

9年間の活動を振り返って

健康おおくち21計画策定後、「健康クラブ笑顔21」は、健康づくりに使命感をもち、自分たちの課題や進むべき方向性を考え、自分たちの足でまちを歩きまわりながら、行政が行き届かない隙間を埋めてきてくれた。「健康づくりの主演は住民である」をまさに実行してきた。

「継続は力なり」というように、6分野すべての健康づくりに取り組んできたことで、「健康クラブ笑顔21」の名前が住民の中にも浸透し、地道に続けてきた9年間の活動が実を結んできている。メンバー自身が「人の健康を考えることが自分の健康にもつながる。人のために生きることが自分のためでもある」と思いながら活動していることを知り、感謝で一杯である。

現在、健康おおくち21第2次計画を作成中であるが、今後も行政の力強いパートナーであ

る「健康クラブ笑顔21」と一緒に健康づくりの軌跡を積み重ねていきたいと思っている。

若杉聖実 ●わかすぎ・さとみ
愛知医科大学看護学部
〒480-1195 愛知県長久手市岩作屋又1-1

事例へのコメント

浜松医科大学健康社会医学講座 尾島俊之

これからの健康づくり活動においては、住民主体による地区組織の活躍が大きく期待されます。地区組織が大活躍している地域としては、高度成長時代や、さらに昔に地区組織が形成され、その活動が脈々と続いていて活発に行われている事例がよく見られます。一方で、市町村合併や行政の効率化が求められるなかで、そのような地区組織が廃止になったり、また昔からそのような地区組織があまりなかったりという自治体も多く、こういう地域は苦慮していることと思います。

この大口町の「健康クラブ笑顔21」は、新しく健康づくりに関する住民組織を立ち上げ、じっくりと着実に活動が広がってきているというもので、まさに、健康日本21(第2次)がめざす取り組みの1つだと思います。

全国での先進事例という点、スーパーマンのようなキーパーソンがいたり、また財政的に恵まれていたりするからできるのだと思われる事例もよくありますが、大口町の取り組みは、多くの普通の自治体にとって、ちょっと頑張れば手の届きそうな、半歩先に行く事例であるという点で、多くの自治体の参考になることと思います。

なお、各自治体にある地区組織は、任意団体のところが全国的に多いと思われませんが、この事例ではNPOとして立ち上げているという点がユニークです。すべての地区組織についてそのようにすべきとは言えませんが、他の自治体で新しい組織を立ち上げるときにその形態を検討するうえでの参考になると思います。

連載「新しい健康日本21へのヒント」 原稿募集のお知らせ

皆さんの取り組み事例を募集中です！

連載「新しい健康日本21へのヒント」では、第2次「健康日本21」がめざす「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」のための活動事例を募集しています。「まだ評価が終わっていないから」「小さな取り組みだから」などの遠慮は無用です。お気軽にご投稿ください。採用事例は連載サポーター*のコメントとともに掲載させていただきます。

■募集内容：「健康日本21」で示された新たな健康づくりの方向性のうち、とくに「社会環境の整備」「健康格差の縮小」「ソーシャルキャピタルの醸成」に関連する取り組み事例。

自治体・職域(産業保健)・NPOなど、活動の主体は問いません。

■執筆項目：①地域や組織の概要(人口構成の特徴や保健活動の体制など)、②背景(当初の健康課題、活動開始の経緯など)、③実際の活動内容、④取り組みによる変化や成果、⑤今後の課題・予定など。

■分量：約4000～6000字(図表含む)

■送付先：医学書院【保健師ジャーナル】編集室
「新しい健康日本21へのヒント」募集係

Eメールの場合：hokenshi@igaku-shoin.co.jp

郵送の場合：〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

*連載サポーター：尾島俊之(浜松医科大学)、近藤克則(日本福祉大学)、藤原佳典(東京都健康長寿医療センター研究所)、高尾純司(岡山大学大学院歯歯薬学総合研究科)、稲葉陽二(日本大学法学部)、近藤尚己(東京大学大学院医学系研究科)

保健活動のまとめ

平成26年6月発行

編 集 大 口 町 健 康 福 祉 部 健 康 生 き が い 課
(大 口 町 保 健 セ ン タ ー)
丹 羽 郡 大 口 町 伝 右 一 丁 目 35 番 地
電 話 0587 (94) 0051
F A X 0587 (94) 0052

発 行 大 口 町

健康おおぐち21 シンボルマーク



ハッピー・スマッピー